

令和7年度  
第4回 三重県河川整備計画  
流域委員会

二級河川 三滝川・海蔵川  
(第4回流域委員会)

令和7年12月25日





# 目次

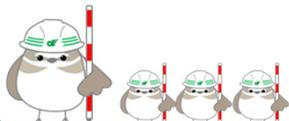
1. **これまでの経緯** [一部更新]
2. **前回流域委員会での意見・回答** [新規]
3. **第2回住民アンケート調査結果** [新規]
4. **河川整備計画（原案）の概要** [新規]
  - 4.1 **流域及び河川の概要** [変更なし]
  - 4.2 **現状と課題（治水・利水・環境）** [変更なし]
  - 4.3 **河川整備計画の目標に関する事項** [新規]
  - 4.4 **河川整備計画の実施に関する事項** [新規]
5. **今後の進め方** [一部更新]



# 目次



1. **これまでの経緯** [一部更新]
2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]
4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]
5. 今後の進め方 [一部更新]



## 第1回 流域委員会（令和6年8月23日）

- ✓流域の概要、現地視察
- ✓治水、利水、環境の現状と課題

## 第1回アンケート （令和6年12月～令和7年1月）

- ✓関係住民の意見聴取  
（流域の概要、治水、利水、環境の  
現状と課題）

## 第2回 流域委員会（令和7年5月13日）

- ✓気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
- ✓治水計画における見直しの方向性

## 第3回 流域委員会（令和7年9月25日）

- ✓河川整備計画(原案)(案)

## 第2回アンケート （令和7年10月）

- ✓関係住民の意見聴取  
（河川整備計画(原案)(案)）

## 第4回 流域委員会（令和7年12月25日）

- ✓河川整備計画(原案)

今回



関係機関協議・パブコメ・関係市町長意見聴取

河川整備計画策定(令和7年度中)



# 目次



1. これまでの経緯 [一部更新]
- 2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]**
3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]
4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]
5. 今後の進め方 [一部更新]



□令和7年9月25日に第3回流域委員会を開催

Q1:9月12～13日の大雨で内水氾濫が発生した区域は、**三滝川**南側の流域外になると思う。

これから実施する**三滝川・海蔵川**のアンケートにおいて、住民の方々はこの内水氾濫が**三滝川・海蔵川**によるものではないと理解できるだろうか。

また、アンケートのパンフレットには「流域治水」と強調しているところもあるので、今回の内水氾濫も関係ないわけではないと思う人もいるため、留意した方がよい。

A1:ご指摘のとおり、今回発生した内水氾濫区域は、四日市市公共下水道(雨水)の排水区域であり、**三滝川**から外水氾濫したものではありません。

**三滝川**が起因した被害ではありませんが、アンケートでは住民の方々が混同される可能性がありますので、回答集計に際し留意します。

一方で、ご指摘の区域は**三滝川・鹿化川**の洪水浸水想定区域でもありますので、引き続き市と連携して流域治水に取り組んでいきます。

⇒内水氾濫と混同されたアンケート回答はありませんでした。



□令和7年9月25日に第3回流域委員会を開催

Q2:「河川整備計画(原案)(案)の方向性」に「河道内の樹木について…必要に応じて伐採する」と記載されている。「必要に応じて伐採し、その分を近傍に植樹する」というような文言が入れられないか。

また、河道内は難しくても、河道外に似たような環境をつくることのできるような工夫はできないか。

A2: 伐採については、流水の阻害となる範囲を伐採し、それ以外は可能な限り保全する方向性で考えています。

重機搬入の際に河畔林の一部を伐採する必要があると思いますが、必要最小限にとどめたいと思います。

アドバイスをいただきながら、伐採方法や営巣に重要な木は残すという工夫しつつ、河川整備計画本文への記載内容について考慮します。

⇒本文(三滝川p.20・21、海蔵川p.18)主要工事の概要に「河畔林については、鳥類等の生息場としての機能に配慮して可能な限り保全を図り」と記載させていただきました。



# 目次

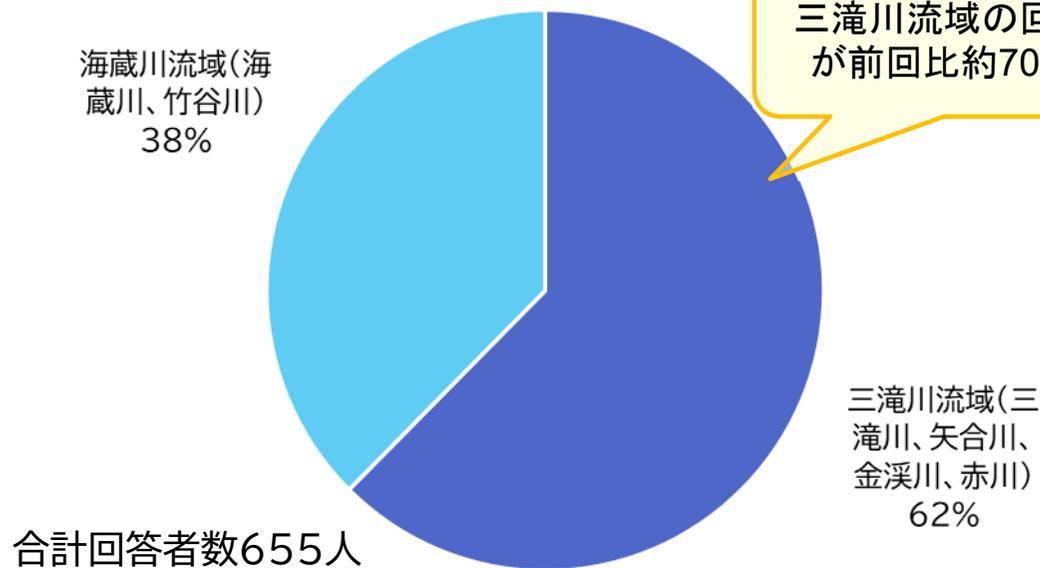


1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
- 3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]**
4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]
5. 今後の進め方 [一部更新]

# 第2回アンケート調査概要



- 調査対象者  
三滝川流域、海蔵川流域の住民
- 調査期間  
令和7年10月1日～令和7年10月31日
- 回答方法  
WEBサイトでの回答(QRコードを利用)  
四日市市、菰野町の広報や地区市民センターも利用し、協力依頼
- 回答件数  
655件
- 集計方法  
水系(三滝川・海蔵川)ごとに集計



三滝川流域の回答者数が前回比約70名増加

三滝川流域と海蔵川流域それぞれに対する回答数

## 三滝川流域・海蔵川流域の河川整備計画に関するアンケート調査(第2回)に御協力をお願い致します

令和7年10月

三滝川流域、海蔵川流域及びその周辺にお住いの皆様へ  
三重県 四日市建設事務所

日頃から、三重県の河川行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。  
三滝川流域・海蔵川流域では、平成18年に河川整備計画を策定し、計画に基づく整備を進めてきましたが、計画策定から約20年経過したことから、今回、計画を見直すこととなりました。  
このアンケート調査は、三滝川流域・海蔵川流域の川づくりをよりよい計画とするため、流域にお住まいの皆様のお考えや、ご意見をいただくことを目的としています。



### アンケートの手順



### ご回答にあたってのお願い

■アンケート調査は、インターネットにより実施させていただきます。  
右記の2次元コードまたは、下記URLからアクセスの上、ご回答ください。  
URL: <https://forms.gle/m934a6Tzx44qkfhC7>  
回答期限: 令和7年10月31日(金) 23時59分まで (お1人様1回限り)

### アンケート調査にあたってのお問い合わせ先

■三重県 四日市建設事務所  
事業推進室 流域・公園課 担当:堀出、谷中 TEL:059-352-0677/FAX:059-352-0666

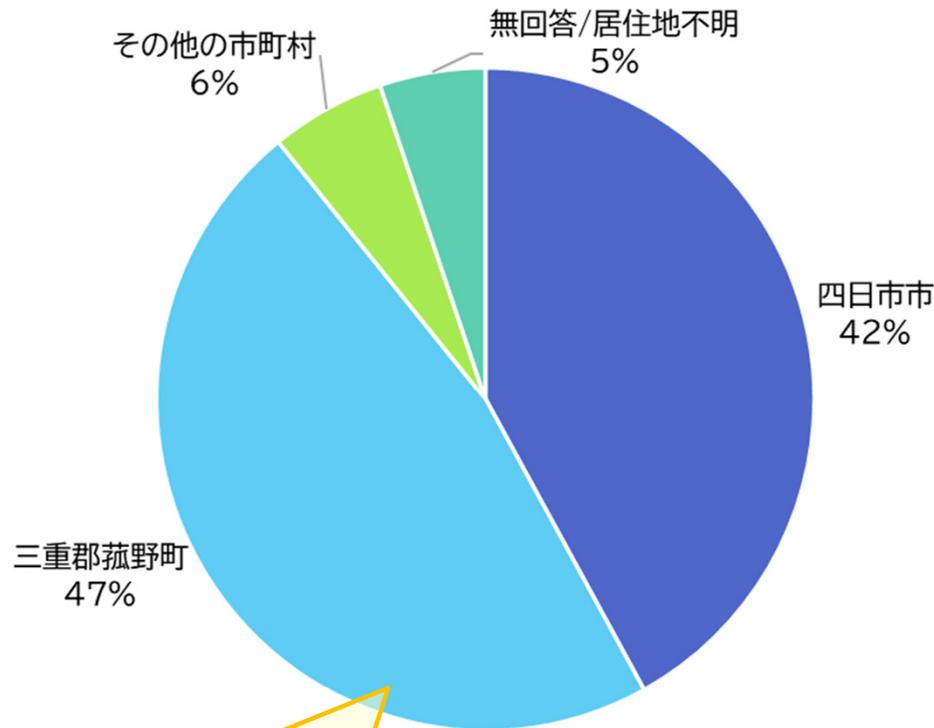
# ■第2回アンケート調査結果(回答者の居住地)



- ・回答者全体では、菰野町在住の回答者数が第1回アンケートと比較して約70名増加した。
- ・三滝川水系の回答者は、菰野町在住者が回答者全体の過半数を占めた。
- ・海蔵川水系の回答者は、四日市市在住者が回答者全体の過半数を占めた。

お住いの地区をお答えください。

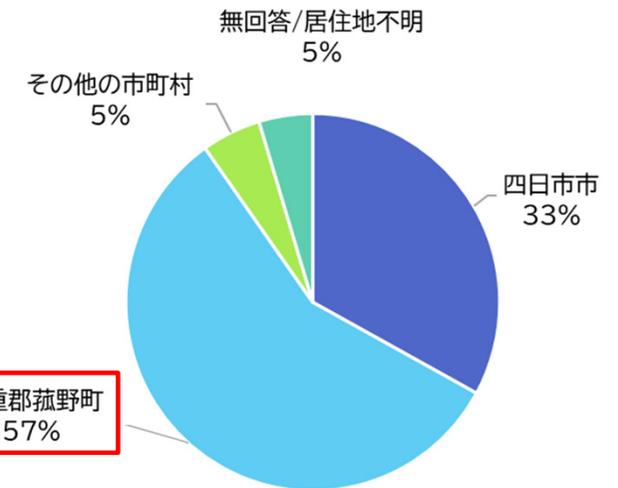
## 回答者全体



菰野町在住の回答者数が前回比約70名増加

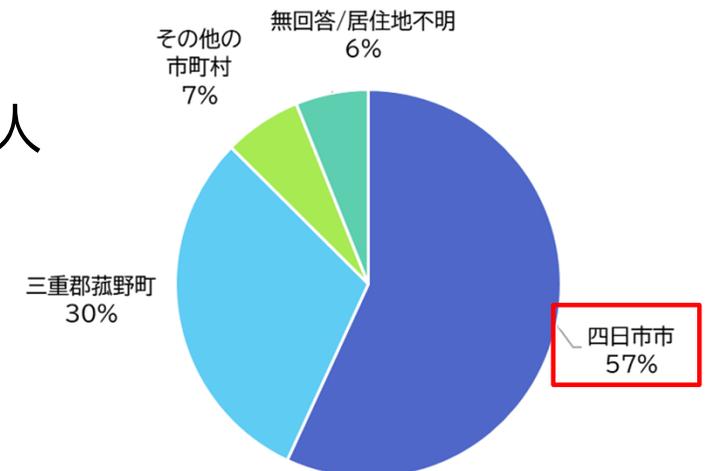
## 三滝川

回答者数409人



## 海蔵川

回答者数246人



# 第2回アンケート調査結果(治水対策)

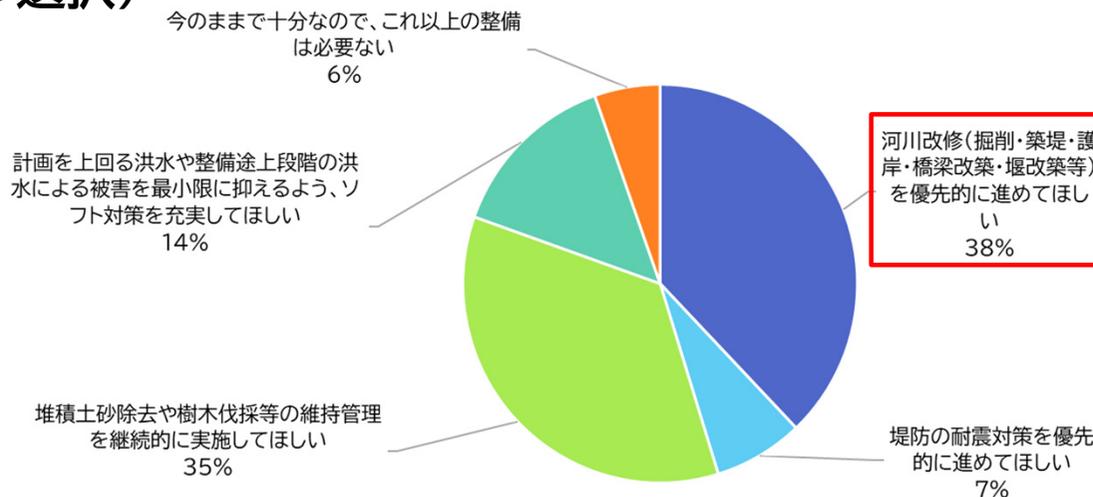


- ・両水系とも、河川改修や維持管理の継続実施を求める声が多かった。
- ・三滝川は、海蔵川と比較して河川改修の実施を求める声が多かった。

三滝川流域・海蔵川流域の河川整備計画(原案)の治水対策について、あなたの意見に最も近いものをお答えください。(1つ選択)

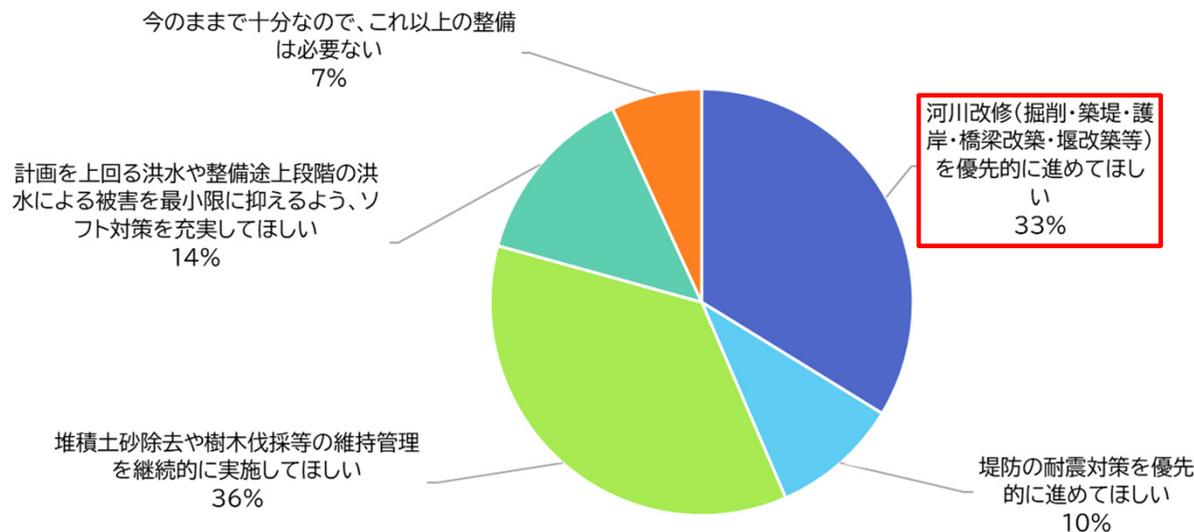
## 三滝川

回答者数409人



## 海蔵川

回答者数246人



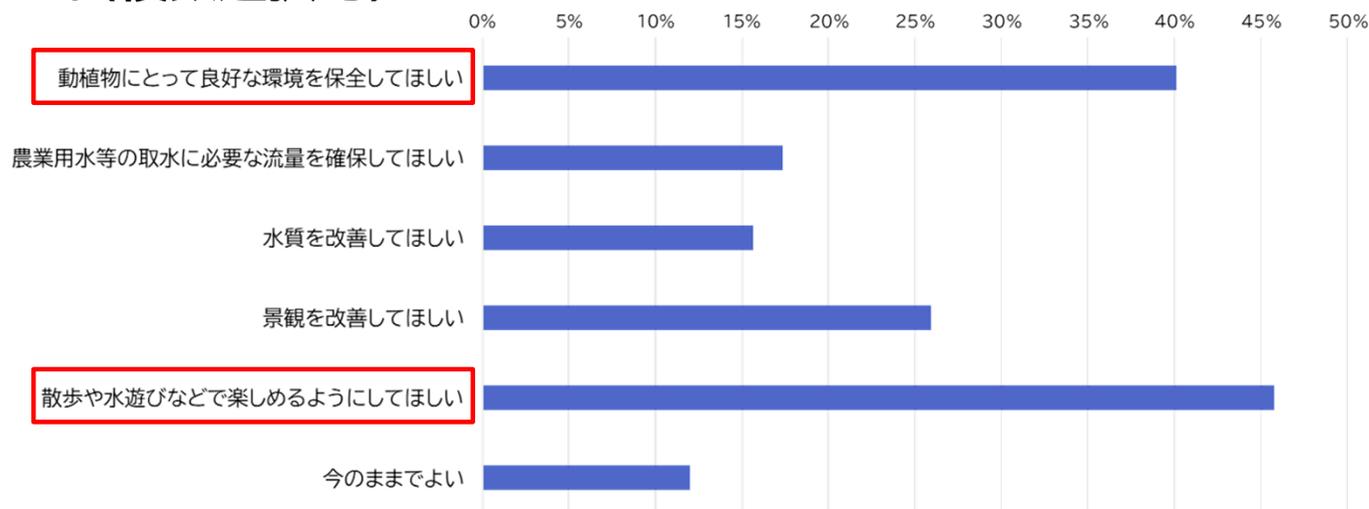


・両水系とも、動植物にとっての良好な環境の保全や、散歩や水遊び等での利用に適した整備を求める声が多かった。

三滝川流域・海蔵川流域の河川整備計画(原案)の利水・環境について、あなたの意見に最も近いものをお答えください。(複数選択可)

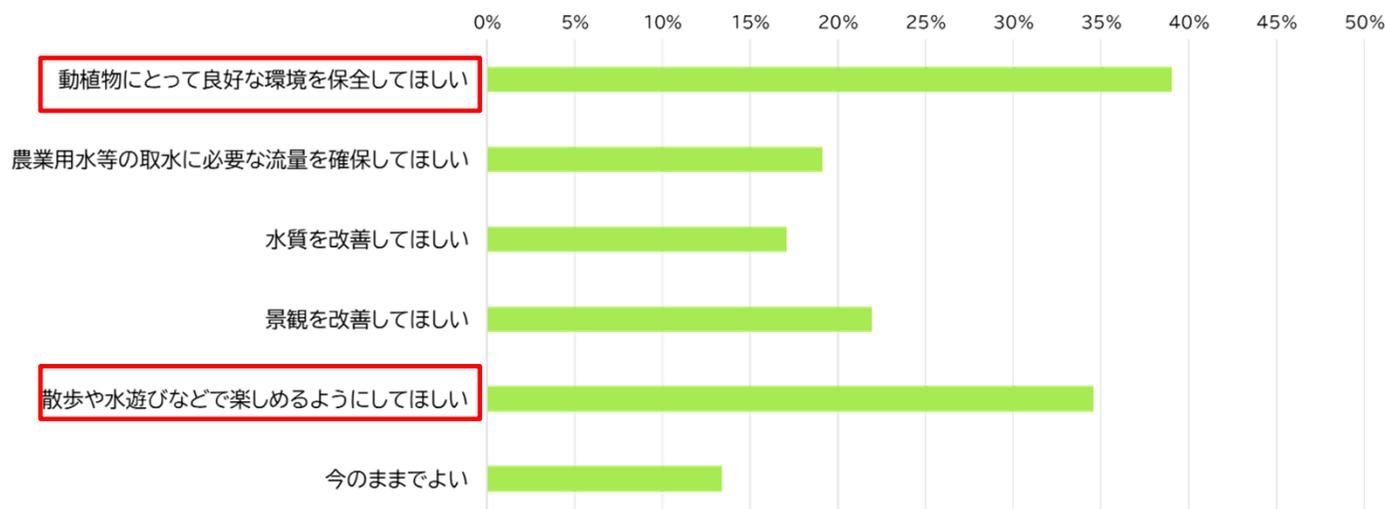
## 三滝川

回答者数409人



## 海蔵川

回答者数246人





• **三滝川の治水対策**に関してのご意見

河川の整備に関するご意見	河川の整備以外に関するご意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>今後、気候変動による豪雨で堤防決壊による洪水が懸念される。防災対策を中心とした総合的な河川整備を実施してほしい。</u></li> <li>・川底が高く、川幅が急に狭くなっているところもいくつかあります。災害が起きる前に対策をしてほしい。</li> <li>・<u>菰野中学校から菰野高校付近の川幅が急激に狭くなっている</u>ので、当該付近の整備が必要では。</li> <li>・川幅が狭くなる手前の地域なので、先日の大雨でもライブカメラを見て恐かった。少しでもリスクが減るように土砂除去や樹木伐採も継続的にお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>河川の整備には限界があるので、一時的に雨をためておく池などを整備してほしい。また田んぼに水がためられるのであれば、開発を抑制するなどして、田んぼを残して</u>いってほしい。</li> <li>・堆積土砂除去や樹木伐採等を継続的にしてほしい</li> <li>・農繁期と豪雨が重なると農業用取水堰が開放されず、上流域の溢水につながるケースが多い。もっとソフト対策を強化すべき。</li> <li>・雨量や川の流量などの情報をカメラなどを利用してリアルに素早く確認出来る様にして欲しい。</li> </ul>

• **三滝川の利水・環境**に関するご意見

環境・生物に関するご意見	利水・風景に関するご意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>防災と環境整備の両面で整備するのは難しい面もある</u>と思いますが、<u>全国の優良事例を参考に、豊かな自然環境保護を盛り込みながら、河川整備を進めて頂ければと</u>考えます。</li> <li>・整備計画に生態系や、川と人とのつながりといった視点も取り入れる必要があると思います。</li> <li>・取水堰(固定堰)で生物の移動が止まっていたり、堰の上下流の土砂堆積が著しいので、早期に堰を撤去(可動堰に改修)してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>よい景観や住民の憩いの場</u>になっているところは現状を維持したまま動植物や農業用水等への配慮をあわせてお願いしたい。</li> <li>・河川敷を公園や広場に整備して欲しい。</li> <li>・車で遊びに行けるような駐車場もあると遊びに行きやすい。</li> <li>・久保田橋より上流は川が見えにくく、下流のように川の水面に近づくこともできないので、もっと川を身近に感じることをできる風に工事してほしい。</li> </ul>



## ● 海蔵川の治水対策に関してのご意見

河川の整備に関するご意見	河川の整備以外に関するご意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>今年度に入り、全国で短時間大雨特別警報が出されています。その雨量は、100mm/hを越えるものとなっております。資金的に無理かも知れませんが、その雨量に対応するインフラを構築して下さい。</u></li> <li>・昨今の気象変化は従来の時とは比較にならない状況になり得ると考えますので過去のデータの何倍もの予想が必要なのではと考えます。</li> <li>・三滝川から海蔵川への分派を作っているが大雨の際、海蔵川は大丈夫なのだろうか。</li> <li>・これまでの河川整備の経緯を公開してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>土砂が堆積しており、また木が茂っていたりして洪水がいつ起きてもおかしくない。すぐに対策をしてほしい。</u></li> <li>・今年9月の大雨のデータを含めて年超過確率は再計算するのか。</li> <li>・激甚災害を想定しての取組が必須となるがハード面はもとよりソフト面の協力体制が必須になるので難しいと考えます。</li> <li>・地域住民に、リアルタイムの情報共有を希望します。</li> </ul>

## ● 海蔵川の利水・環境に関するご意見

環境・生物に関するご意見	利水・風景に関するご意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>河川幅は可能な限り広く取り、強固な堤防を確保したうえで、流路そのものは可能な限り自然に配慮した構造としてほしい。</u></li> <li>・コンクリートで固めるのではなく、石などで護岸を形成し、水を分散させ、染み込ませるなど自然に近い工法も検討して頂きたいと思えます。</li> <li>・治水・洪水対策と魚道整備などの魚類等の自然環境保護を両立してほしい。</li> <li>・本川と流入する中小河川での生物の可逆性を確保できる流入構造が望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>整備して人が集まる場所にしてほしい</u></li> <li>・堤防整備をしていただき自転車専用道やジョギングできる道を川のそばに作ってほしい。</li> <li>・河川敷へ降りられるスロープ、駐車場の整備、自転車道や芝生広場が足りません。</li> <li>・夏の猛暑による湧水が米不足の原因とならないような配慮も必要と考えます。</li> </ul>

# 第2回アンケート調査結果(流域治水)

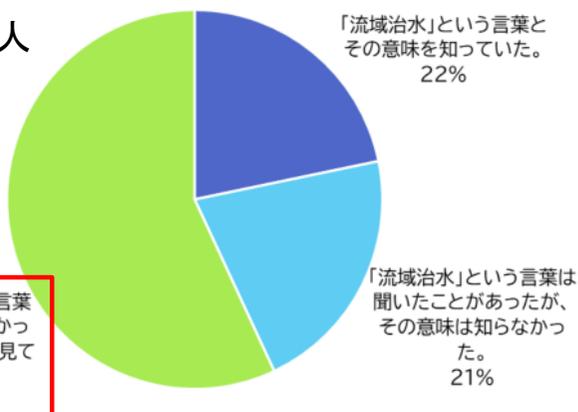


- ・三滝川・海蔵川の河川整備計画に関する項目の他、流域治水の取組に関するアンケート項目を設定した。
- ・アンケートの実施にあたって、配布したパンフレット内で三重県における流域治水の取組を紹介した。
- ・流域治水の取り組みについて、「『流域治水』という言葉はきいたことがなかった。(パンフレットを見て初めて知った)」と回答した人が全体の半分以上を占めた。

## ⑨ 「流域治水」という言葉やその意味を知っていましたか？(1つ選択)

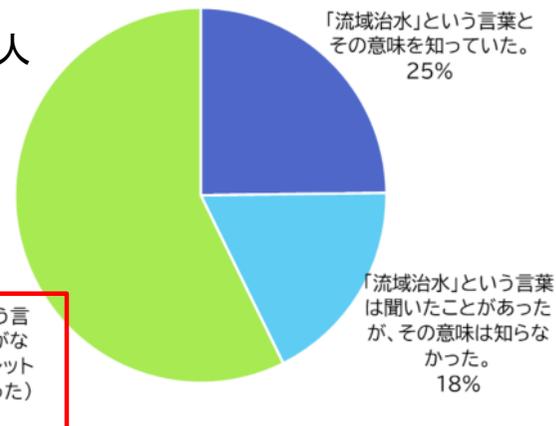
### 三滝川

回答者数409人



### 海蔵川

回答者数246人



## 流域治水の取り組みを進めています。

三滝川流域・海蔵川流域では、気候変動による水害リスクの増大を踏まえ、河川整備計画に基づく河川改修を進めるとともに、流域に関わるあらゆる関係者が協力して、流域全体で水害を軽減させるための治水対策である「四日市圏域二級水系流域治水プロジェクト」が進められています。このプロジェクトでは、①**氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**、②**被害対象を減少させるための対策**、③**被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**に取り組んでいます。

### ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修・堆積土砂の撤去・ダム建設などの治水対策、田んぼダムや農業用ため池を活用した雨水貯留対策、森林整備による保水力の向上などを推進しています。

- 農業用ため池の活用**  
大雨が予測される際にあらかじめ水位を下げることで大雨を一時的に溜めて、一度に川へ流れ込む水の量を抑えます。
- 田んぼダムの普及・啓発**  
田んぼの排水口に厚板などを設置し、雨水が川や排水路へ、すぐに流れ込むのを抑制します。

### ② 被害対象を減少させるための対策

浸水想定区域など水災害リスクを把握し、よりリスクの低い地域への居住を促すなど、まちづくりや住まいの工夫を行っています。

- 立地適正化計画に基づく防災指針の作成**  
市町が立地適正化計画に基づく「防災指針」を策定し、水災害リスク等を踏まえた住居や都市機能の安全な場所への計画的な誘導を進めています。

### ③ 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

ハザードマップの作成・公表や、インターネット・SNSによる河川水位情報・降雨情報の発信などを推進しています。

- 防災情報の提供**  
(ハザードマップ、簡易型河川監視カメラ、危機管理型水位計等)  
頻発する豪雨災害への備えとして、「危機管理型水位計」、「簡易型河川監視カメラ」を設置し、水災害の早期把握に資する情報提供を行います。



配布したパンフレット(抜粋)



<p>災害について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 両水系とも回答者の約7割は河川改修や維持管理の継続実施を求めている。</li> <li>◆ <u>気候変動等による豪雨の増加傾向を念頭に置いた総合的な河川整備の実施を求める意見があった。</u> ⇒ <u>整備計画では、将来の気候変動による影響を考慮し、1/50降雨量の1.1倍規模による洪水に対して甚大な被害を防ぐことを整備目標として設定した。</u></li> <li>◆ <u>三滝川の菰野町区間において、川幅が狭いことに対する意見が複数あった。</u> → <u>三滝川は既往計画の工事区間を延伸し、治水安全度の向上を図ります。</u></li> <li>◆ <u>河道の整備だけでなく、貯水池や田んぼダムを活用等、流域治水の推進に関する意見もあった。</u> ⇒ <u>流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策(流域治水)について、関係機関と連携して推進する。</u></li> </ul>
<p>環境・生物 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 両水系とも回答者の約4割が動植物にとって良好な環境を求めている。</li> <li>◆ <u>強固な堤防を確保したうえで、流路そのものは可能な限り自然に配慮した構造としてほしい。</u> ⇒ <u>瀬や淵、ワンド等の保全や復元を目指すとともに、鳥類等の生息場としての機能に配慮して可能な限り河畔林の保全を図る。</u></li> </ul>
<p>利水・風景 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <u>三滝川では回答者の5割弱、海蔵川では3割強が散歩や水遊びでの河川利用を望んでいる。</u></li> <li>◆ <u>「よい景観や住民の憩いの場は維持してほしい」と意見があった。</u> ⇒ <u>多様なレクリエーション、人々の触れあい、安らぎの空間や市街地周辺における豊かな自然環境を有する空間の保全に努める。</u></li> </ul>

# 目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]
- 4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]**
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]**
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]
5. 今後の進め方 [一部更新]



# ■流域及び河川の概要（流域の概要） 三滝川



- **三滝川**(みたきがわ)は、**四日市市・菰野町**を流域とする、管理延長約23.3kmの二級河川である。
- 河床勾配は1/15～1/700で、上流域は溪流となっている。

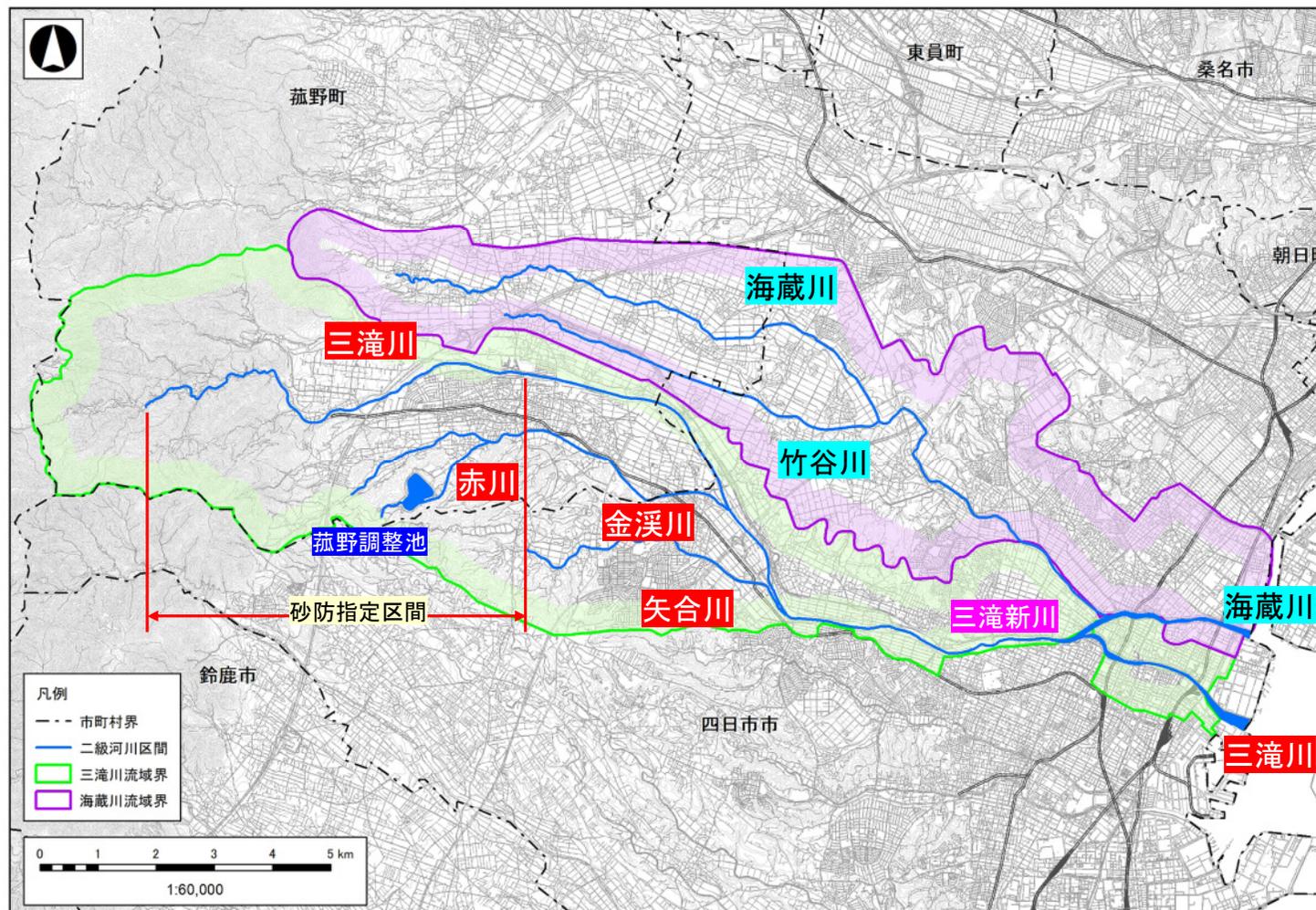
## 三滝川流域

流域面積: 約62.38km<sup>2</sup>

管理延長: 約23.3km

□関係市町: **四日市市**、**菰野町**

□支川: **金溪川**(かんだにかわ)、**矢合川**(やごうがわ)、**赤川**(あかがわ)



三滝川\_JR関西本線横断部  
(下流域)



三滝川\_高角橋(たかつのぼし)上流  
(中流域)



三滝川\_清気橋(せいきばし)下流  
(上流域)

# 流域及び河川の概要（流域の概要） 海蔵川

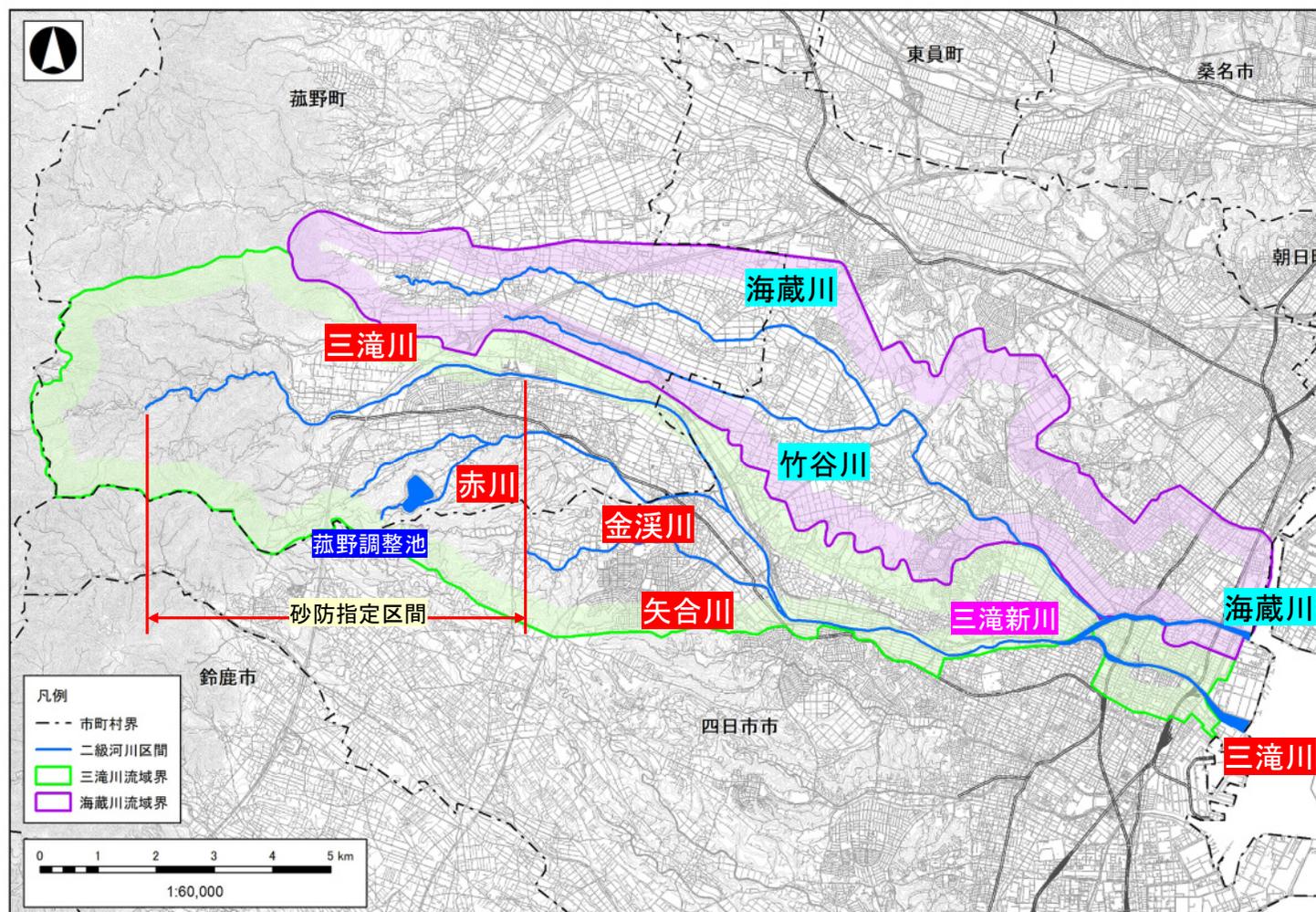


- 海蔵川(かいぞうがわ)は、四日市市・菰野町を流域とする、管理延長約18.7kmの二級河川である。
- 河床勾配は1/150~1/700で、全体的に緩やかな流れ。

海蔵川流域  
流域面積:約43.82km<sup>2</sup>  
管理延長:約18.7km

□関係市町:四日市市、菰野町

□支川:竹谷川(たけたにがわ)



海蔵川\_新開橋(しんかいばし)上流  
(下流域)



海蔵川\_四ツ谷橋(よつやばし)上流  
(中流域)

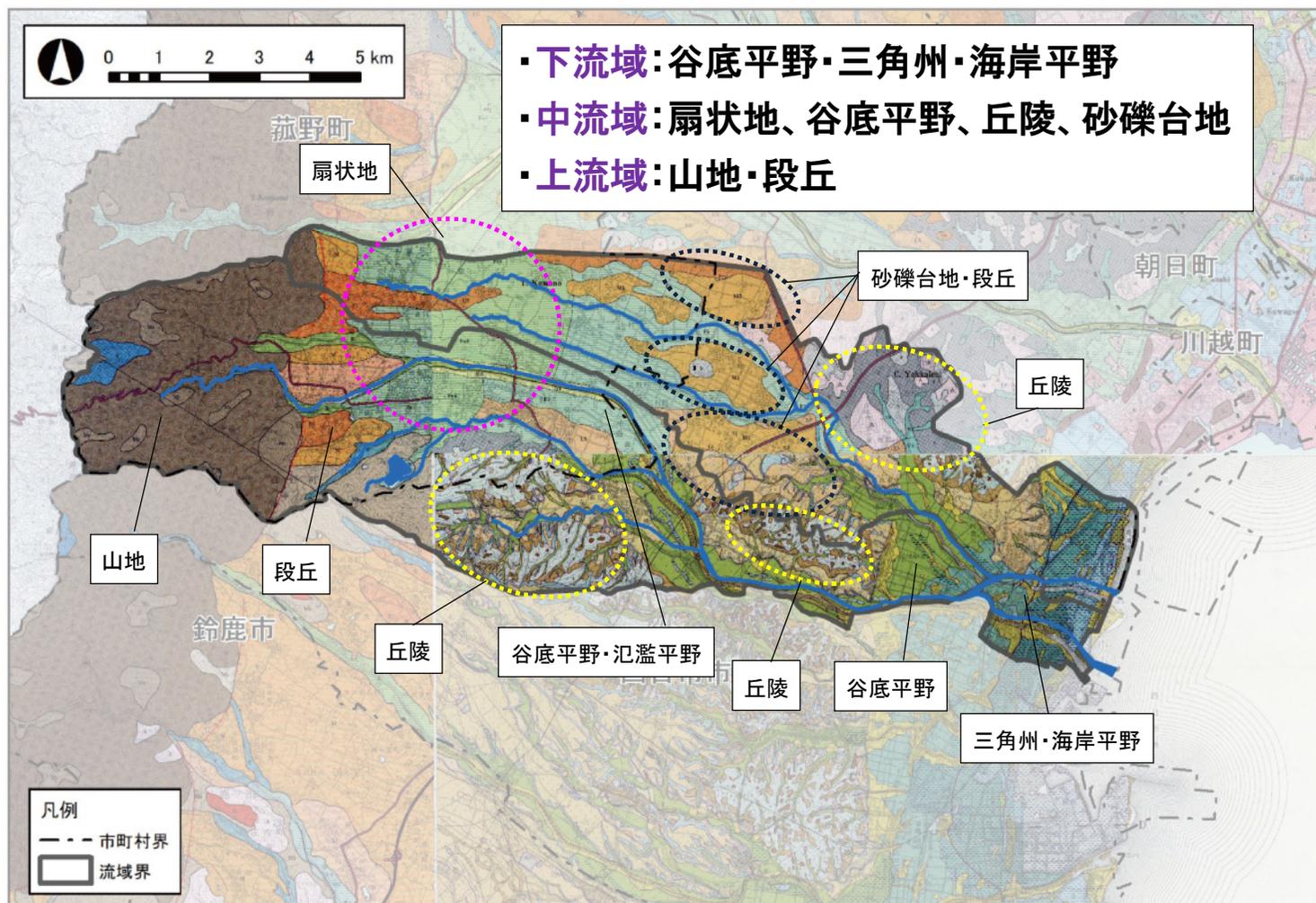


海蔵川\_岡橋(おかばし)下流  
(上流域)

# 流域及び河川の概要（地形）



- 流域の地形は、東西方向に変化に富んだ地形を呈している。
- 下流域は三角州・海岸平野と谷底平野、中流域は川沿いに扇状地と谷底平野が広がり、周辺には丘陵、砂礫台地が分布する。上流域は山地であり、山麓に段丘が分布する。

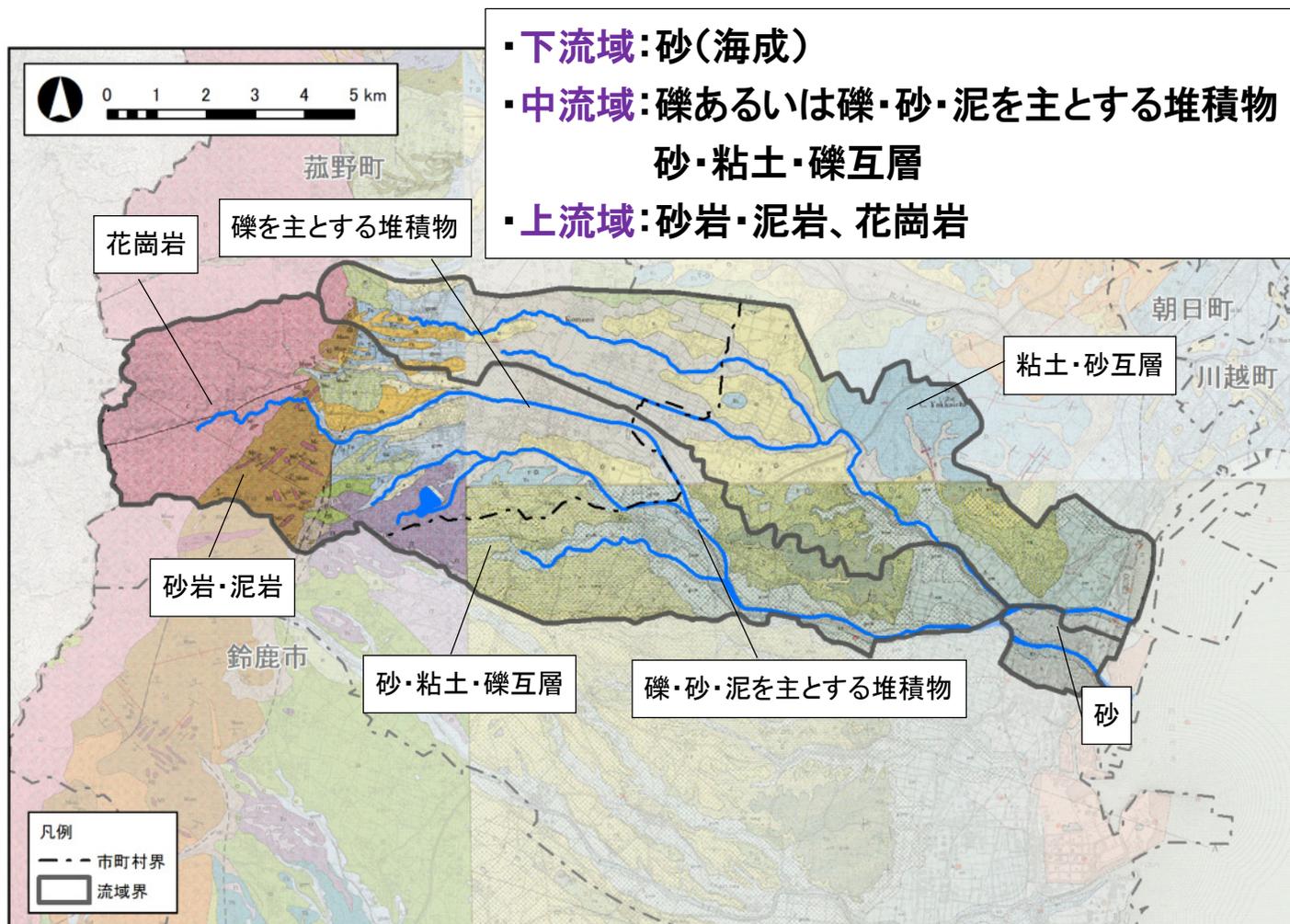


出典：「5万分の1都道府県土地分類基本調査(地形分類図)」「桑名」「四日市」「彦根東部・津島・御在所山・亀山」

# 流域及び河川の概要（地質）



- 流域の地質について、**下流域**は砂、**中流域**の川沿いは礫、あるいは礫・砂・泥を主とする堆積物が分布し、中流域の丘陵や砂礫台地は砂・粘土・礫互層や粘土・砂互層が分布する。
- 上流域**は砂岩・泥岩やチャート、花崗岩で構成されている。



- ・**下流域**: 砂(海成)
- ・**中流域**: 礫あるいは礫・砂・泥を主とする堆積物  
砂・粘土・礫互層
- ・**上流域**: 砂岩・泥岩、花崗岩

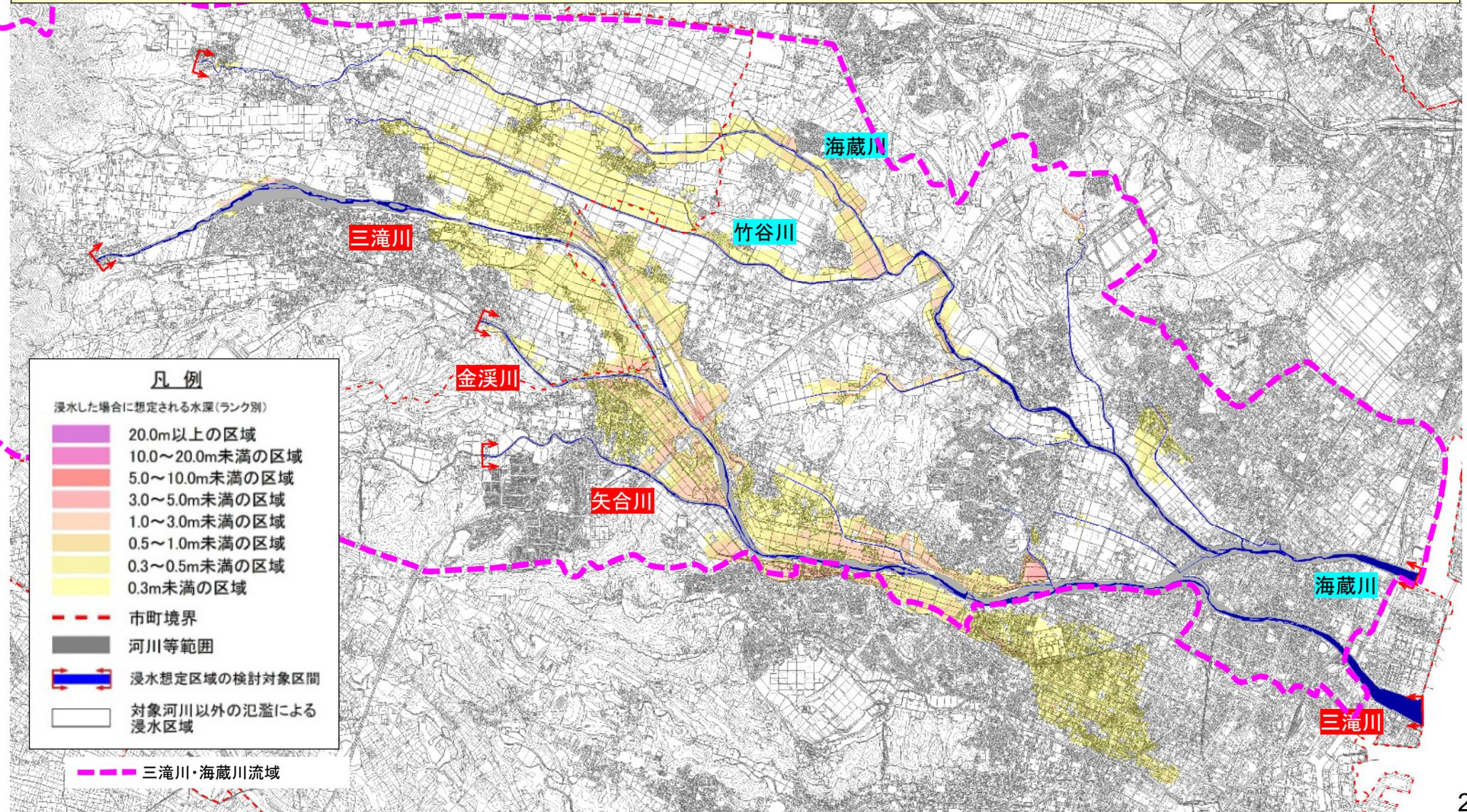
凡例	
<b>【彦根東部・津島・御在所山・亀山】</b>	
未固結堆積物	固結堆積物
gsm 礫・砂・泥からなる堆積物	C 泥岩
s 砂を主とする堆積物	Msh 砂岩・泥岩
tl 礫・砂よりなる堆積物(t1)	Mc チャート
t2 礫・砂よりなる堆積物(f2)	Ml 石灰岩
半固結堆積物	火成岩
th 礫・砂よりなる堆積物(th)	G 花崗岩
fl 礫・砂よりなる堆積物(f1)	
Tu 礫岩	
Ts 砂・シルト・粘土互層	
<b>【桑名】</b>	
未固結堆積物	未固結堆積物
g 礫を主とする堆積物(g)	礫まじり砂
tl 礫を主とする堆積物(t1)	礫・砂・泥
半固結堆積物	砂まじり泥
th 礫を主とする堆積物(th)	s 砂
T3 粘土・砂互層(T3)	D 黒泥
	砂礫
	砂礫
	半固結堆積物
	礫・砂・粘土互層
	砂・粘土・礫互層
<b>【四日市】</b>	

出典:「5万分の1都道府県土地分類基本調査(地形分類図)「桑名」「四日市」「彦根東部・津島・御在所山・亀山」

# 流域及び河川の概要（洪水浸水想定区域図）（三滝川・海蔵川）



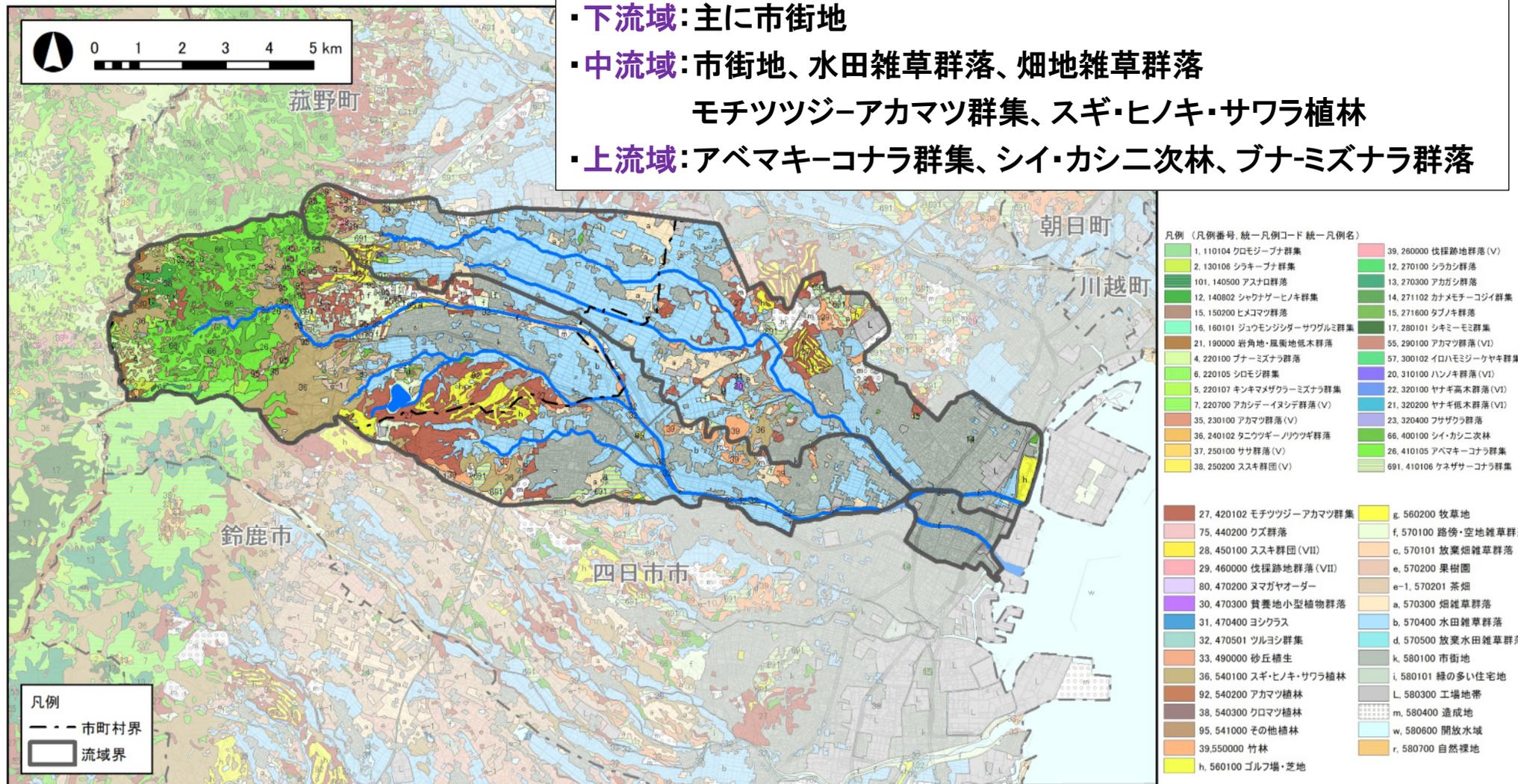
- **三滝川・海蔵川**における浸水想定区域（整備計画規模：年超過確率1/50）は下図のとおり
- 未整備区間となっている本川中上流区間および支川において浸水が多く発生する想定
- 浸水想定区域には市街地や集落が含まれており、特に**三滝川**の想定氾濫区域には市街地や集落が多く存在している。



# 流域及び河川の概要（植生）



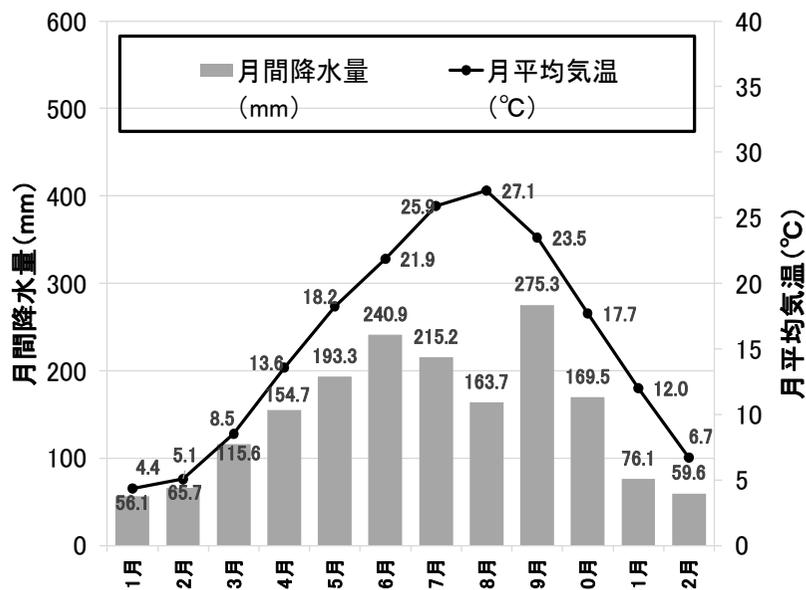
- 流域内の植生について、**下流域**の低地や**中流域**の台地・丘陵は殆ど**市街地**になっている。
- 中流域**の河川沿いは主に水田雑草群落広がり、丘陵の一部はモチツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林となっている。**上流域**では、アベマキ-コナラ群集、シイ・カシ二次林のほか、**山頂**付近でブナ-ミズナラ群落が見られる。



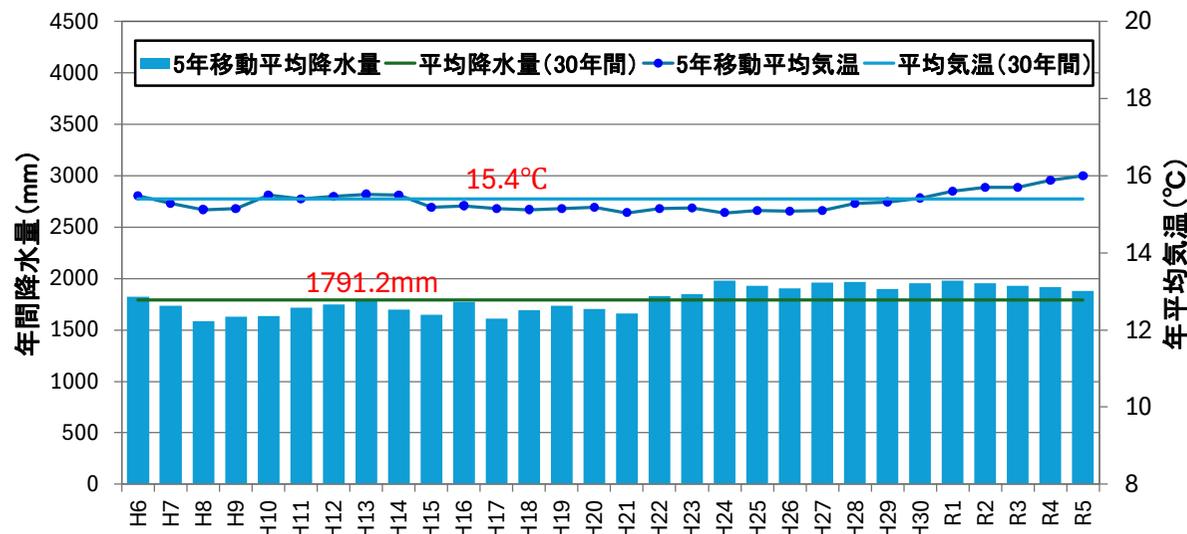
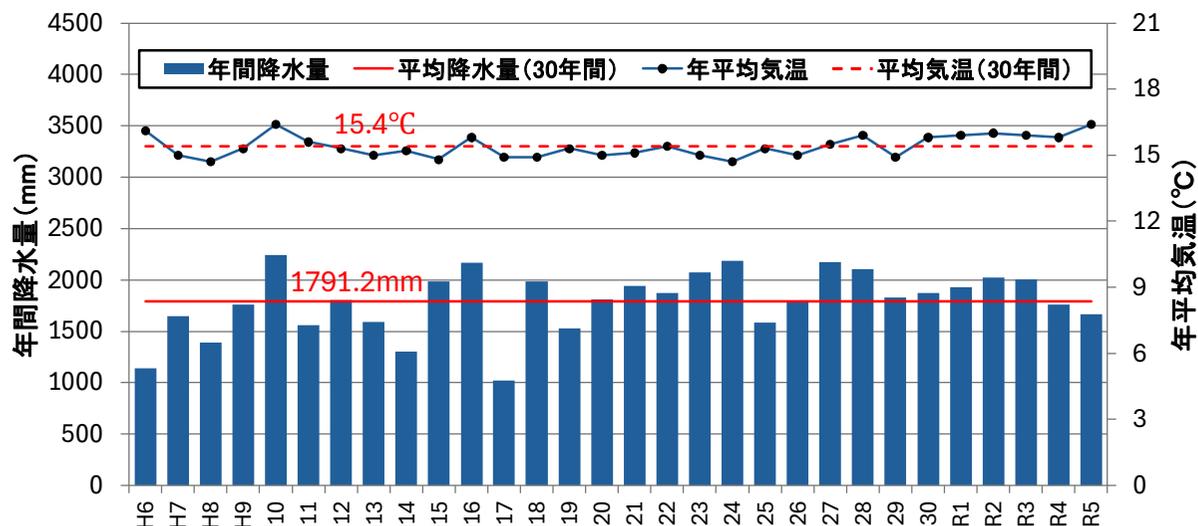
# ■流域及び河川の概要（気候、気象）



- 四日市市における年間気温・降水量の30年平均値(1994～2023年)は15.4℃、及び1791.2mmで、全国平均の14.5℃、1,606.7mmと比べると、やや大きい。
- 経年的な推移を5年移動平均で見ると、近年は気温、降水量ともやや増加傾向である。



四日市市における月別平均気温、降水量  
(気象庁四日市観測所 H26～R5の10カ年平均)



5年移動平均気温、5年移動平均降水量の変化

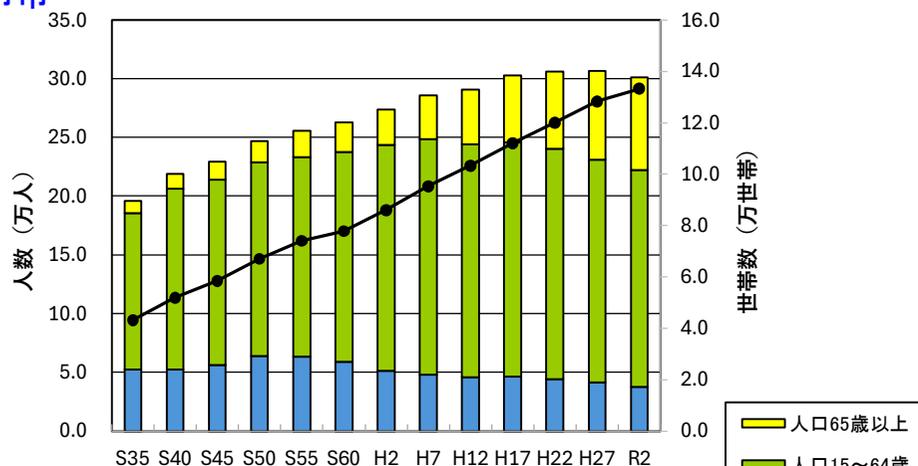
# 流域及び河川の概要（人口・世帯数）



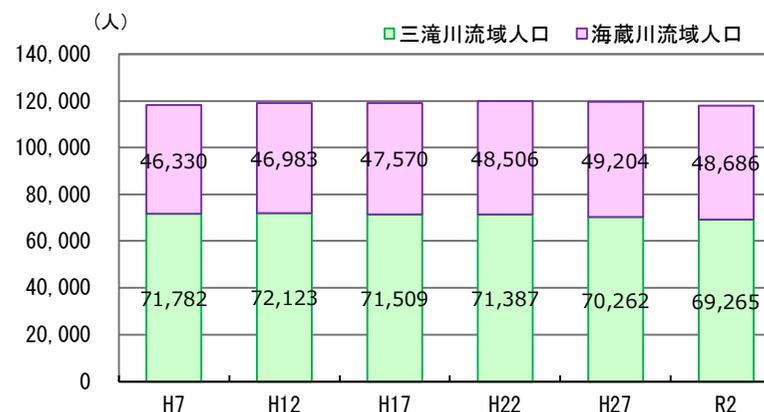
- 四日市市、菰野町とも、世帯数は増加傾向が続いているのに対し、人口は、四日市市では平成27年度以降、菰野町では平成22年度以降は横這い、もしくは微減傾向にある。
- 流域人口の合計は11万9千人で、平成7年以降は横這いであるが、三滝川流域では微減、海蔵川流域では微増傾向がみられる。世帯数は両流域とも増加傾向である。

【人口・世帯数】

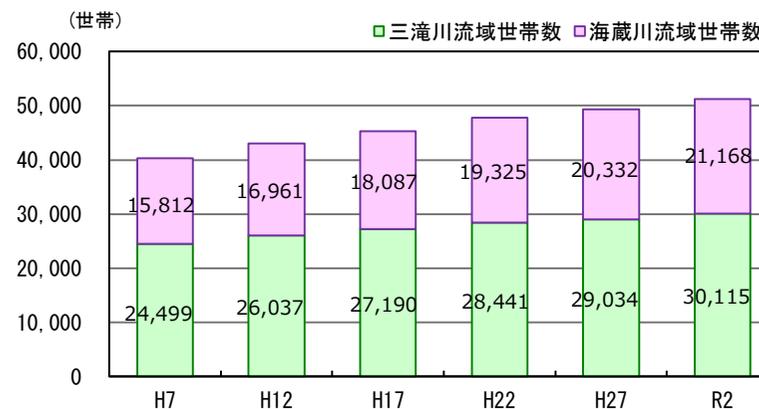
## 四日市市



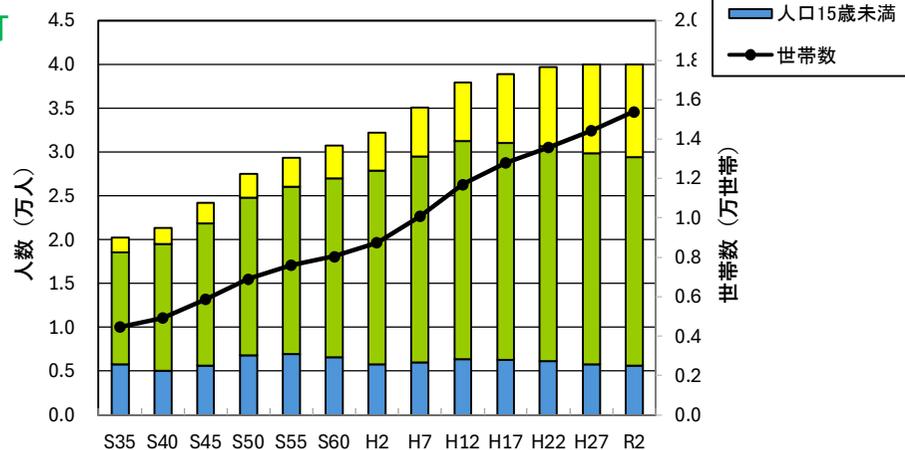
【流域内人口】



【流域内世帯数】



## 菰野町



出典：三重県Webサイト 市町(村)累年統計表  
流域関連市町の人口・世帯数（S35～R2）

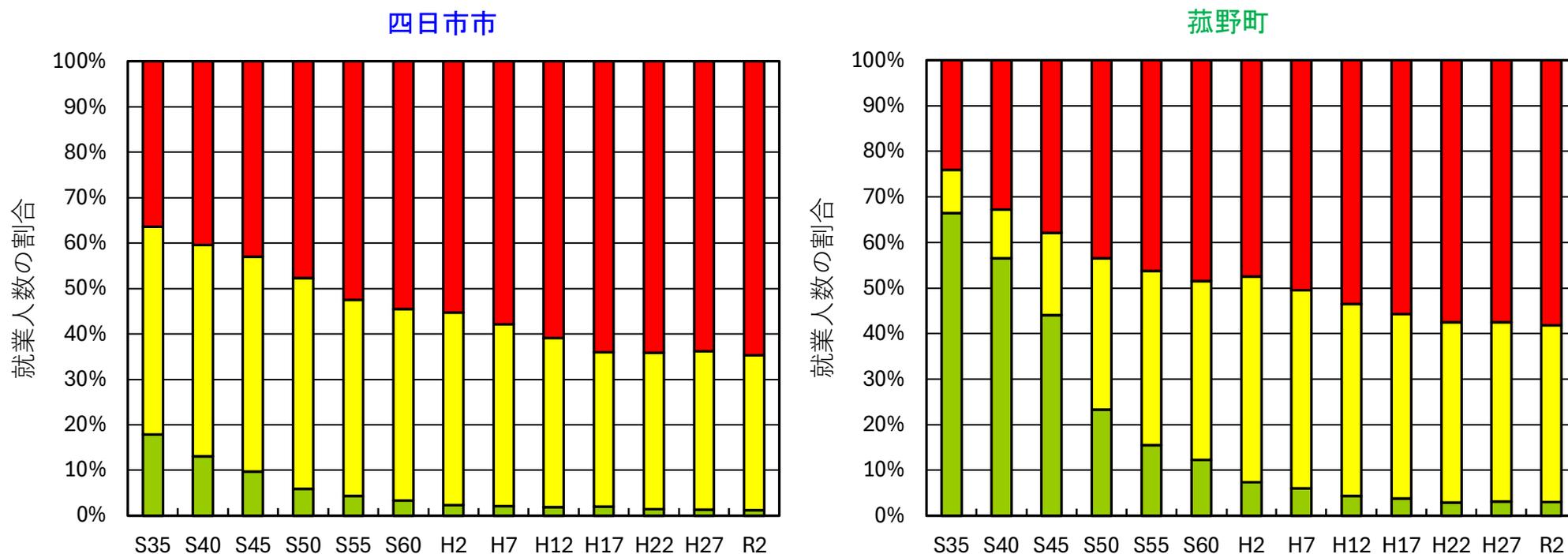
出典：e-start統計で見る日本 4次メッシュデータ

流域内人口・世帯数（H7～R2）

# 流域及び河川の概要（産業）



- 四日市市、菰野町とも、第3次産業従事者割合が経年的に増加しており、平成7年には50%以上を占めるに至っている。
- 四日市市は、第1次産業従事者、第2次産業従事者とも割合が減少している。
- 菰野町は第2次産業従事者割合が昭和35年から平成7年まで増加、その後は横這いである一方、第1次産業従事者割合は昭和35年の66%から令和2年には4%まで大幅に低下した。



出典：三重県Webサイト 市町(村)累年統計表

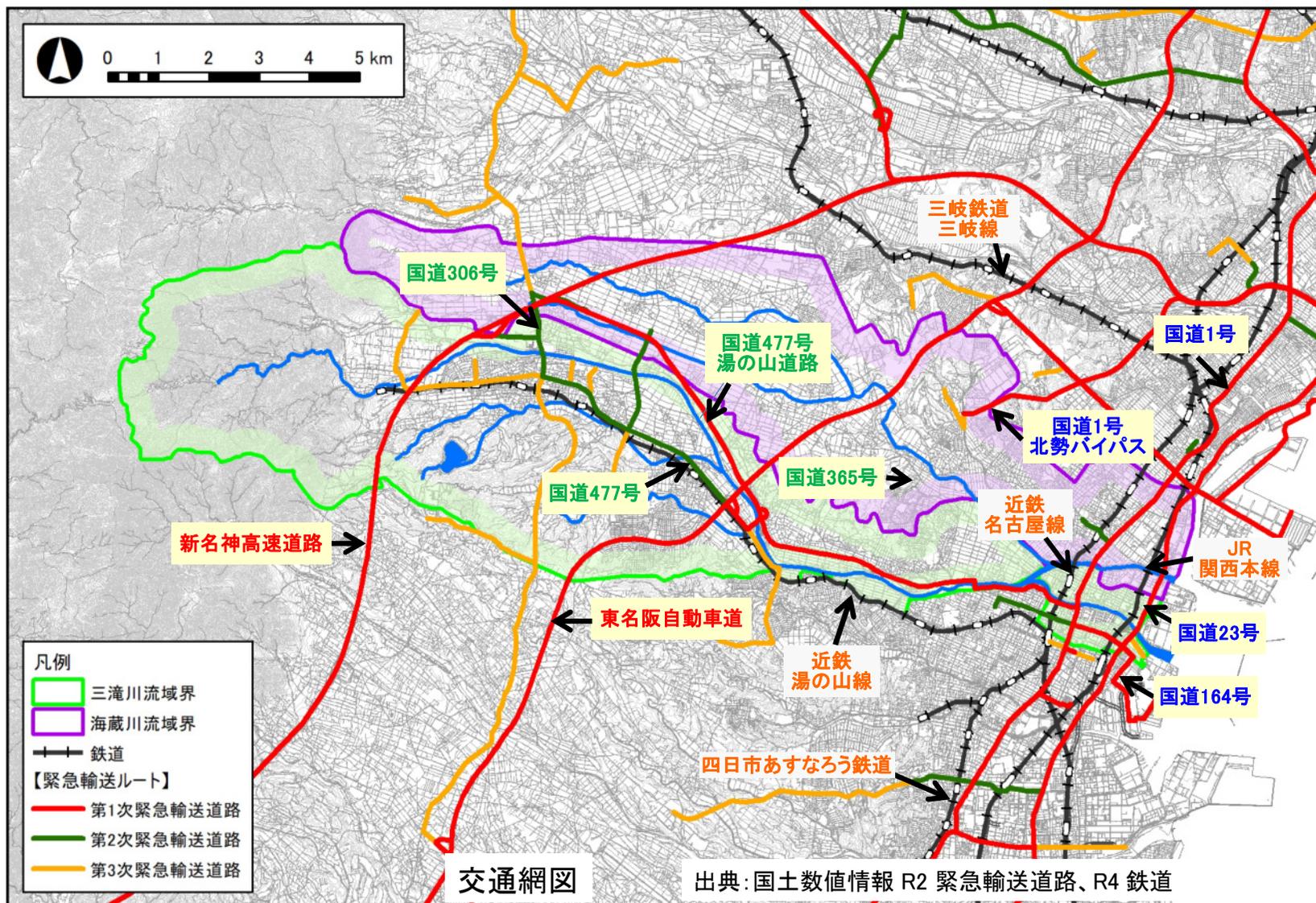
産業別従事者数の推移（S35～R2）



# 流域及び河川の概要（交通）



- 流域における主要な交通施設として、**新名神高速道路**、**東名阪自動車道**、**国道1号**、**北勢バイパス**、**国道23号**、**国道306号**、**国道477号**、**湯の山道路**などの幹線道路、**JR関西本線**、**近鉄名古屋線・湯の山線**などの鉄道が位置しており、多くの橋梁が河川を横過している。

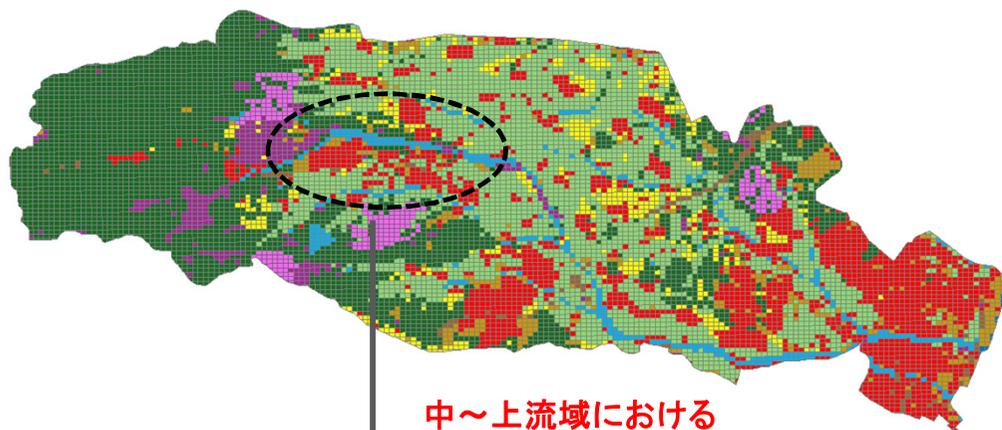


# 流域及び河川の概要（土地利用）

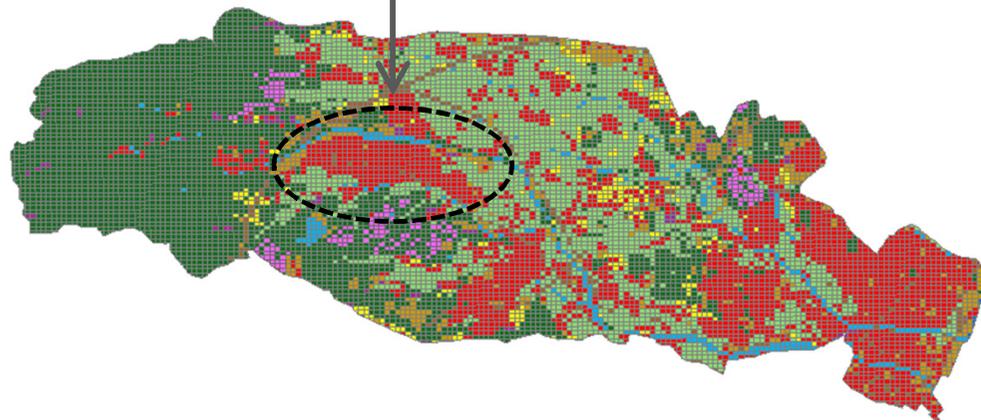


- 流域内の土地利用は、平成9年以降に「田」、「その他の農用地」、「森林」、「荒地」が減少している一方で、「建物用地」が令和3年現在も増加傾向が続いている。
- 下流域の四日市市既成市街地の拡大だけでなく、中流域～上流域の菰野町においても市街化が著しく進行している。

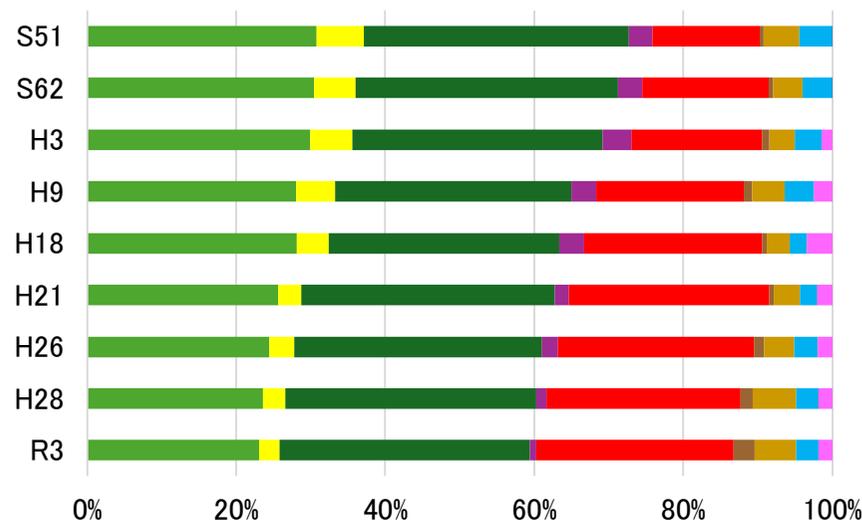
H9年(1997年)



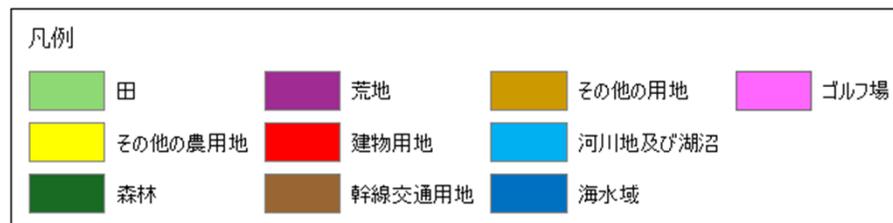
R3年(2021年)



中～上流域における市街化の進行



流域内における土地利用別の面積割合の変化



出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ

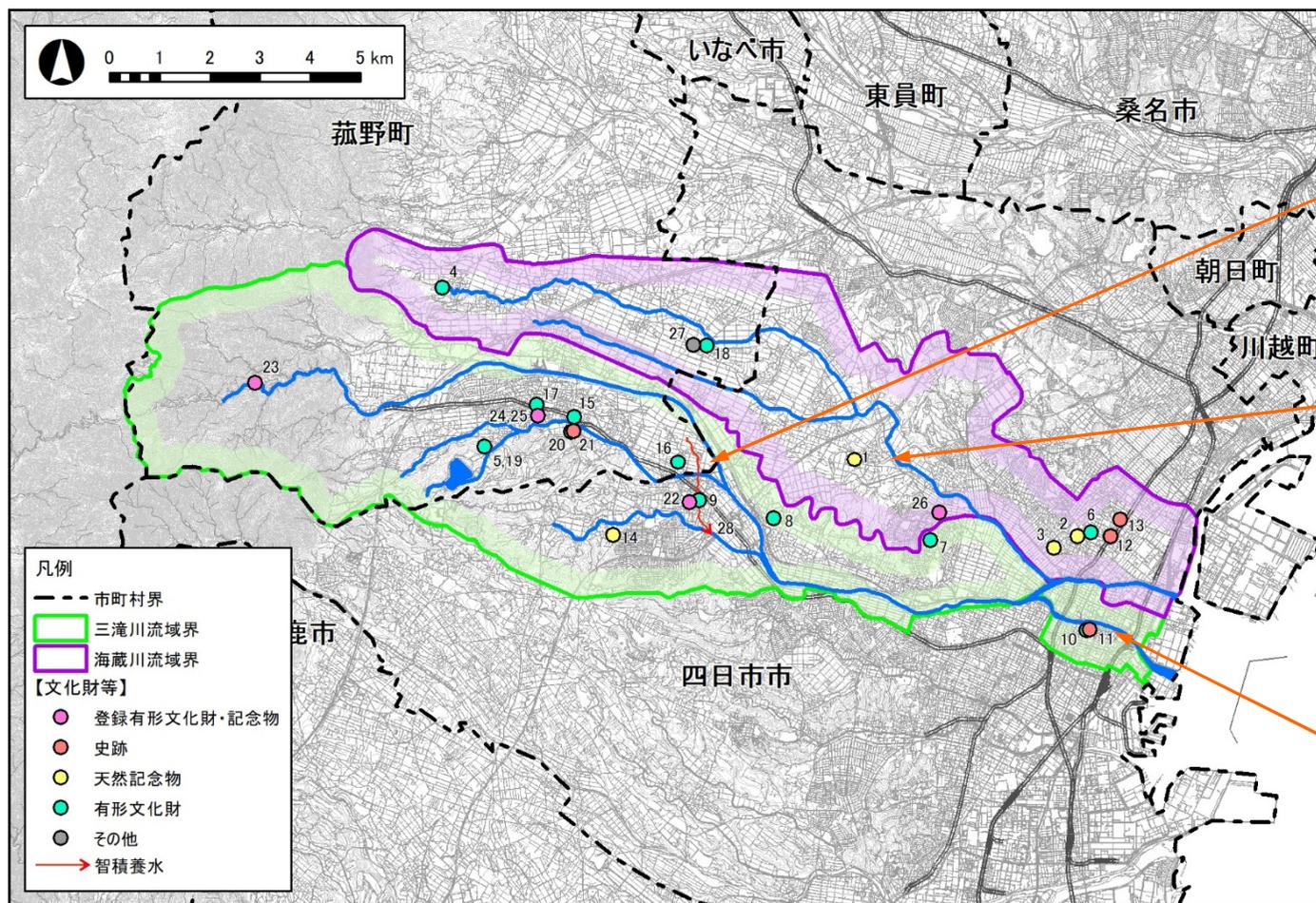
※その他の用地：運動競技場、空港、競馬場・野球場・学校港湾地区・人工造成地の空地等

※データの作成方法の変更により、平成21年以降の土地利用集計結果は、前回までの結果と大きく異なる場合がある

# 流域及び河川の概要（歴史・文化財）



- 流域内における文化財等として、計28件が挙げられる。
- 智積養水(ちしゃくようすい)は、江戸時代に築造された水路で、**三滝川**右岸にある**菰野町**神森(かもり)の蟹池(かにいけ)から湧出する水を水源とし、**四日市市**智積町(ちしゃくちょう)にかけて流れており、1985(昭和60)年に環境省の名水百選に選ばれている。
- 近年、日本書紀に出てくる「迹太川(とほがわ)」※は**海蔵川**のこととする説が有力であり、歴史的な舞台にもなっている。 ※壬申の乱に先立ち、天武天皇が伊勢神宮(天照大神)に向かい望拝したとされる川



流域関連市町の文化財位置図

出典: 国土数値情報 H26 都道府県指定文化財



# 流域及び河川の概要（法定区域）



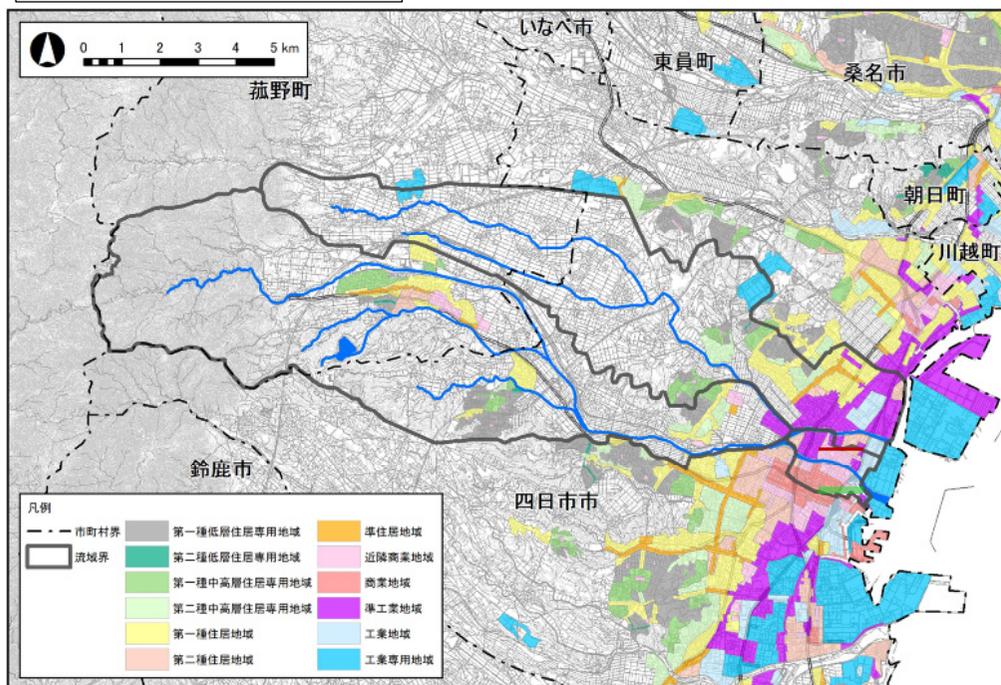
## ■都市計画区域

- 下流域では、海岸部が工業専用地域、準工業地域に指定されているほか、三滝川右岸側が商業地域、近隣商業地域に指定され、四日市市の中心市街地を形成している。
- 住居系の用途地域は、主に三滝新川付近から上流側で指定されており、低地の既成住宅街のほか、丘陵・台地上など、昭和年代以降に開発が進んだ新興住宅街で指定がみられる。

## ■農業振興地域

- 下流域の四日市市市街地、中流域の菰野町市街地、上流域の山地を除く、ほぼ全域が農業振興地域として指定されている。

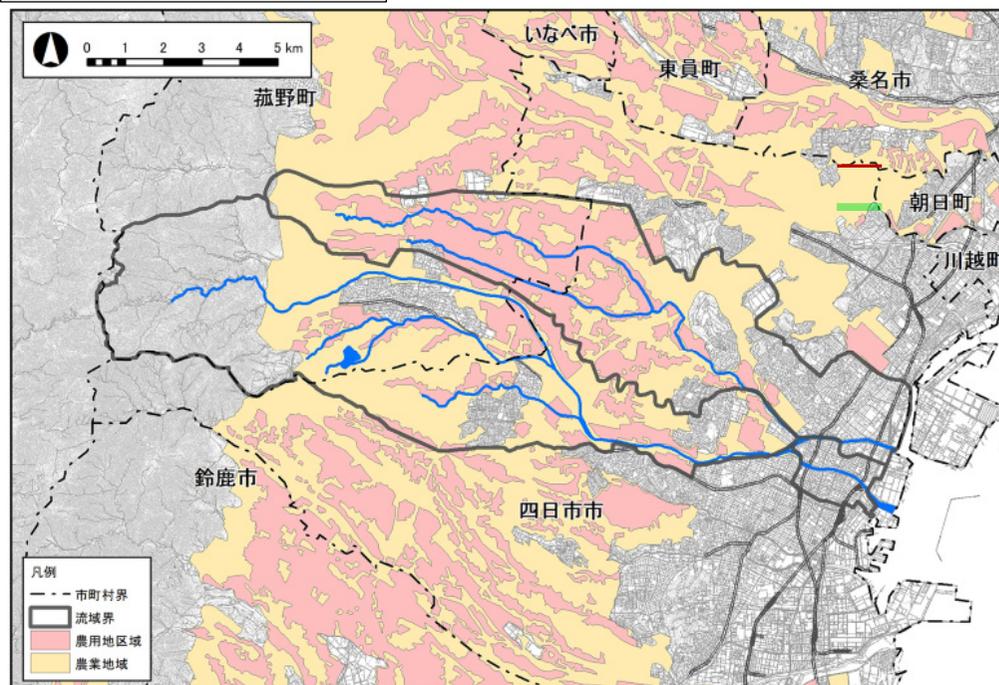
## 都市計画区域



都市計画区域内の用途地域の指定状況

資料：国土数値情報 用途地域データ(R1)

## 農業振興地域



農業振興地域の指定状況

資料：国土数値情報 農業地域データ(R1)

## ■自然公園

- 上流域の山地は、自然公園地域(鈴鹿国定公園)に指定されている。

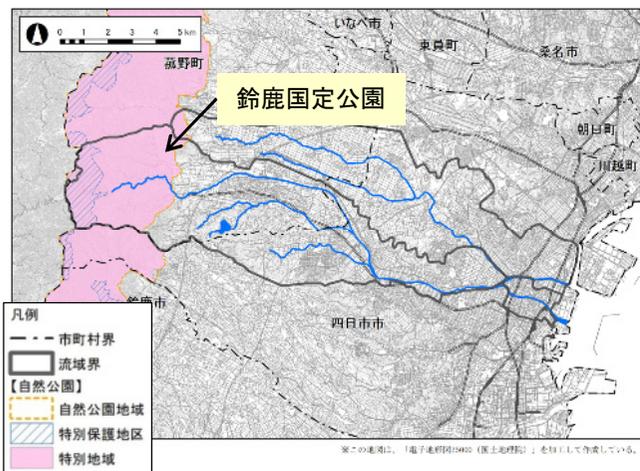
## ■鳥獣保護区・保安林

- 上流域の山地、および下流域～中流域に鳥獣保護区の指定区域があり、山地の鳥獣保護区では一部が特別保護区に指定されている。
- 上流の山地は、ほとんどが保安林に指定されている。

## ■土砂災害警戒区域等

- 主に上流域の山地や丘陵に土砂災害区域の指定区域が分布しており、特に三滝川最上流の溪流区間では、河谷に沿って土砂災害特別警戒区域の指定区域がみられる。

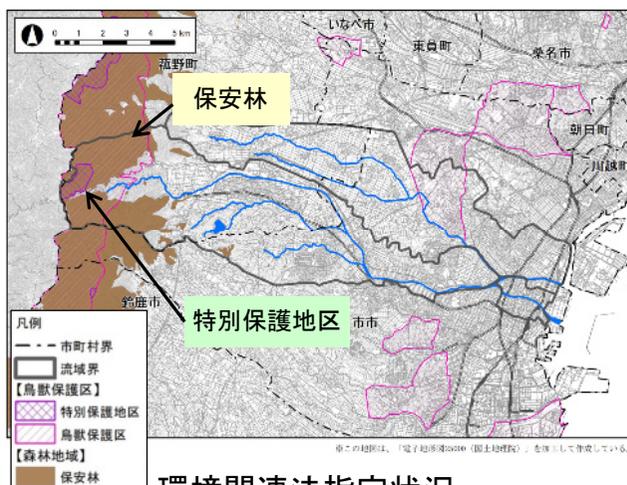
### 自然公園(自然公園法)



自然公園(自然公園法)の指定状況

出典:国土数値情報  
自然公園地域データ、自然保全地域データ(H27)

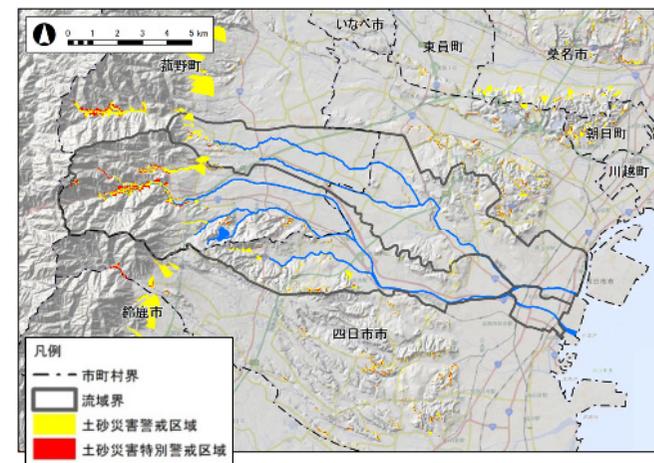
### 鳥獣保護区、保安林



環境関連法指定状況

出典:国土数値情報 鳥獣保護区データ(H27)

### 土砂災害警戒区域等



環境関連法指定状況

出典:国土数値情報 土砂災害警戒区域(R5)

# 目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]
- 4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]**
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]**
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]
5. 今後の進め方 [一部更新]



# ■治水の現状と課題（既往洪水の被害状況）



- 平成12年の東海豪雨以降、三滝川・海蔵川流域において、大規模な浸水被害は発生していないが、小規模な内水氾濫は数年おきに発生している。
- 平成15年から令和7年までの期間において、流域内で被害の記録がある水害※は4件あり、うち外水が1件、内水が3件であった。（※：水害統計(国交省)に記載されている水害 令和7年は調査中のため含まない）

流域における洪水被害等(平成15年～令和7年)

【令和4年9月23日水位上昇状況(三滝川)】

年代	発生原因	洪水の記述等	区域
2008(平成20)年9月2～3日	集中豪雨	山間地での記録的豪雨により崖崩れが多数発生、湯の山地区では国道477号や県道が通行不能となり、孤立状態となった。	菰野町
2012(平成24)年9月30日	台風17号	床上浸水65戸、床下浸水399戸。	四日市
2019(令和元)年9月4～6日	集中豪雨	床上浸水54戸、床下浸水175戸。	四日市
2020(令和2)年9月6～7日	台風10号	床上浸水5戸、床下浸水17戸。	四日市
2025(令和7)年9月12～13日	集中豪雨	四日市市において123.5mm/hr(観測史上最大)を記録。被害状況は速報値	四日市



三重県北部では9月23日午後、大雨になり、菰野町江野雨量観測所で約28mm/hを記録。写真は一色橋付近。

参考資料:「平成20年9月の記録的豪雨による災害について」(「砂防と治水189号」(2009年6月))  
「四日市市地域防災計画 資料(1)」(四日市市, 令和5年7月修正) ※平成年代以降

流域における内水被害等(平成15年～令和7年)

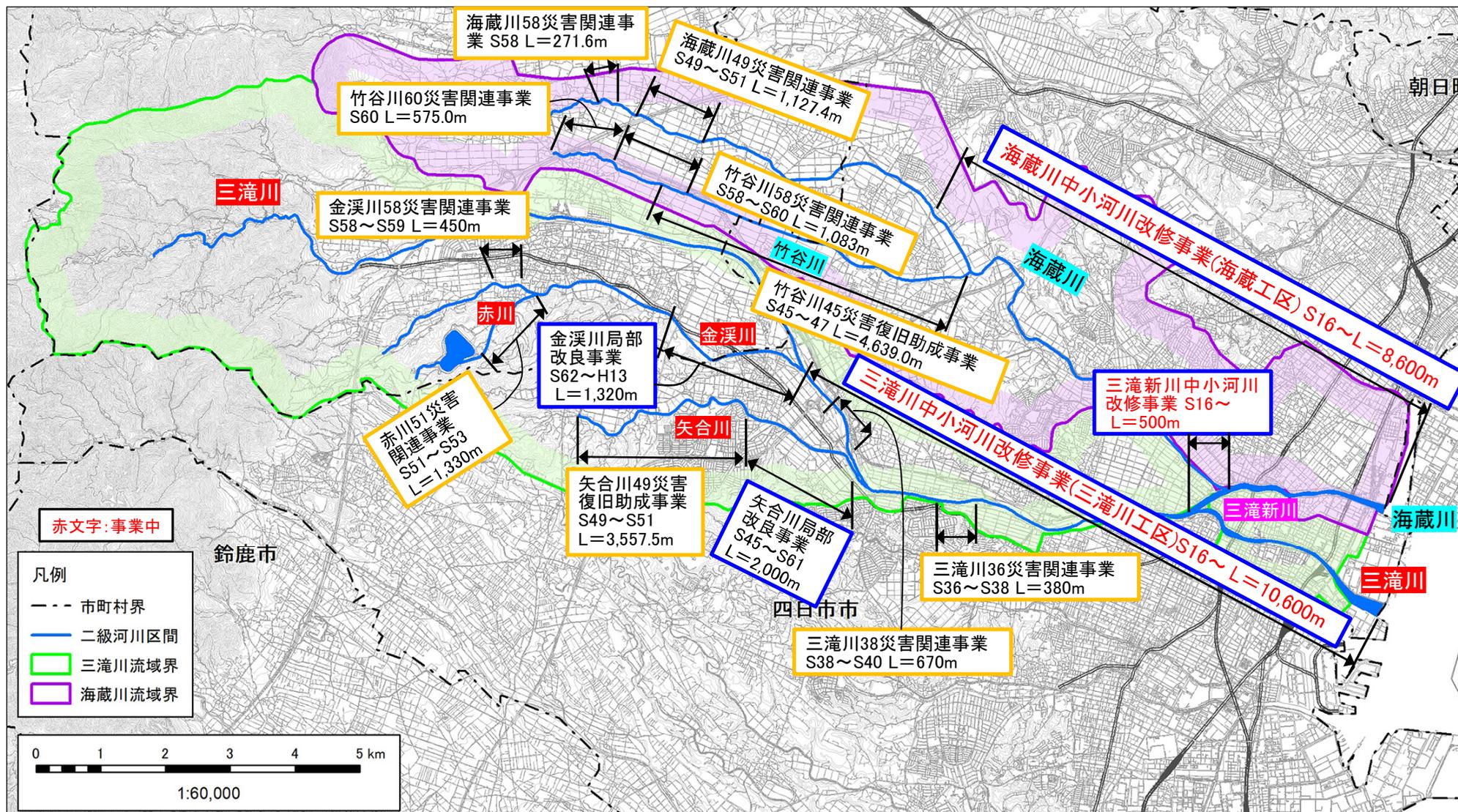
異常気象名	水害発生年月	河川名	市町村名	水害要因	水害区域面積(m <sup>2</sup> )※			被災数※	
					宅地 その他	農地	計	世帯数	
								床下	床上
新潟・福島豪雨	H23.7/24-8/1	野田川(海蔵川水系)	四日市市	内水	140		140	1	
		矢合川(三滝川水系)	四日市市	内水	700		700	5	
台風17号	H24.9/27-10/1	三滝川	四日市市	内水	2,800		2,800	19	
		金溪川(三滝川水系)	四日市市	内水	280		280	2	
豪雨	H27.8/12-8/18	三滝川	四日市市	内水	235		235	2	
豪雨	R1.9/3-9/8	海蔵川	菰野町	無堤部溢水	355		355		1
豪雨	R7.9/12-9/13	四日市市内	四日市市	内水			調査中	約3,100	約200

※資料:水害統計(国土交通省水管理・国土保全局)

# ■治水の現状と課題（河川改修の経緯）

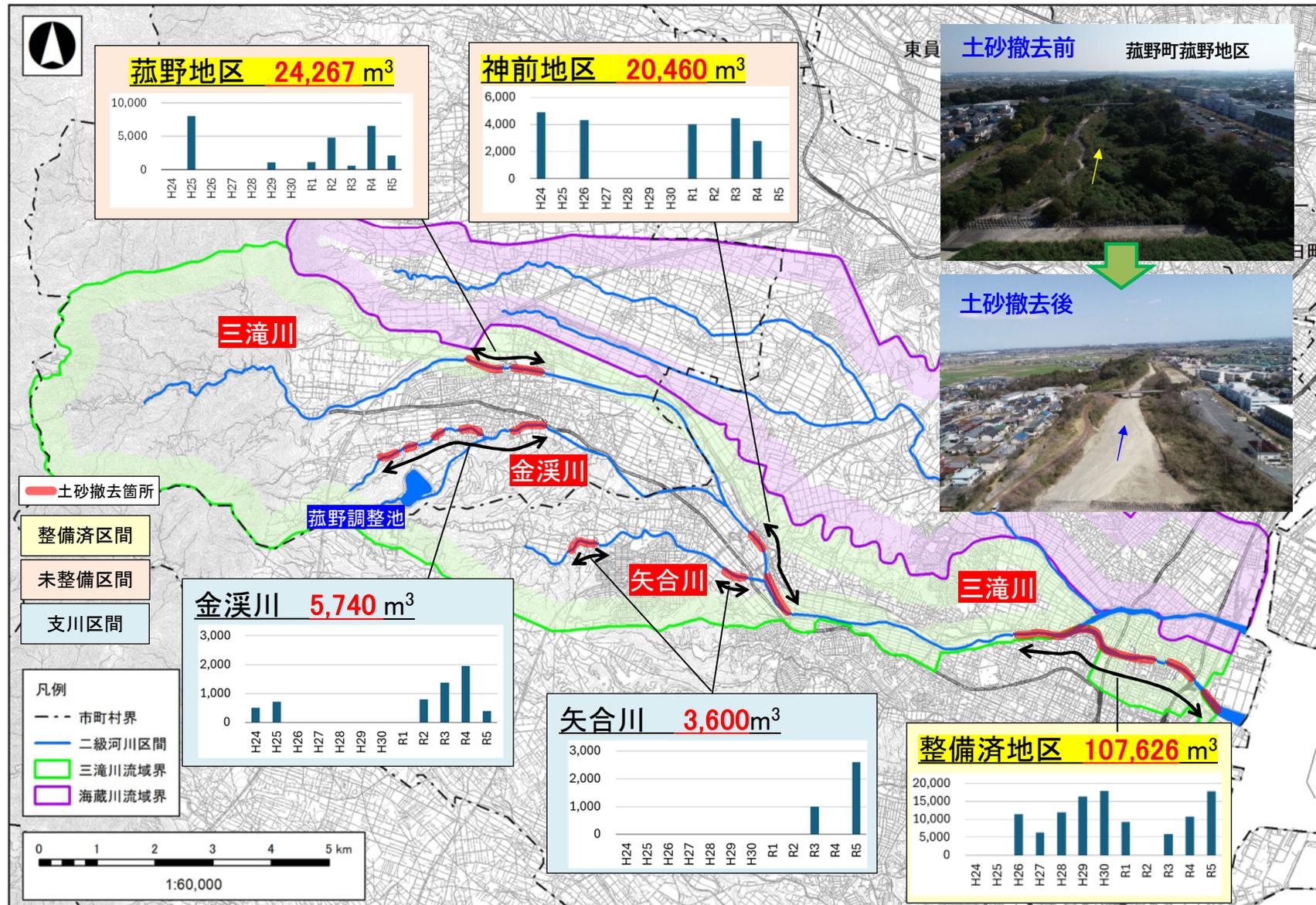


- **三滝川、海蔵川**は、中小河川改修事業により、昭和16年から河道改修に着手されている。
- **三滝川**では河口から10.6kmの区間、**海蔵川**では河口から8.6kmの区間が対象区間であり、**三滝新川**も含め、現在も継続実施中。
- **支川**では、災害関連事業による河道改修が多く実施されている。



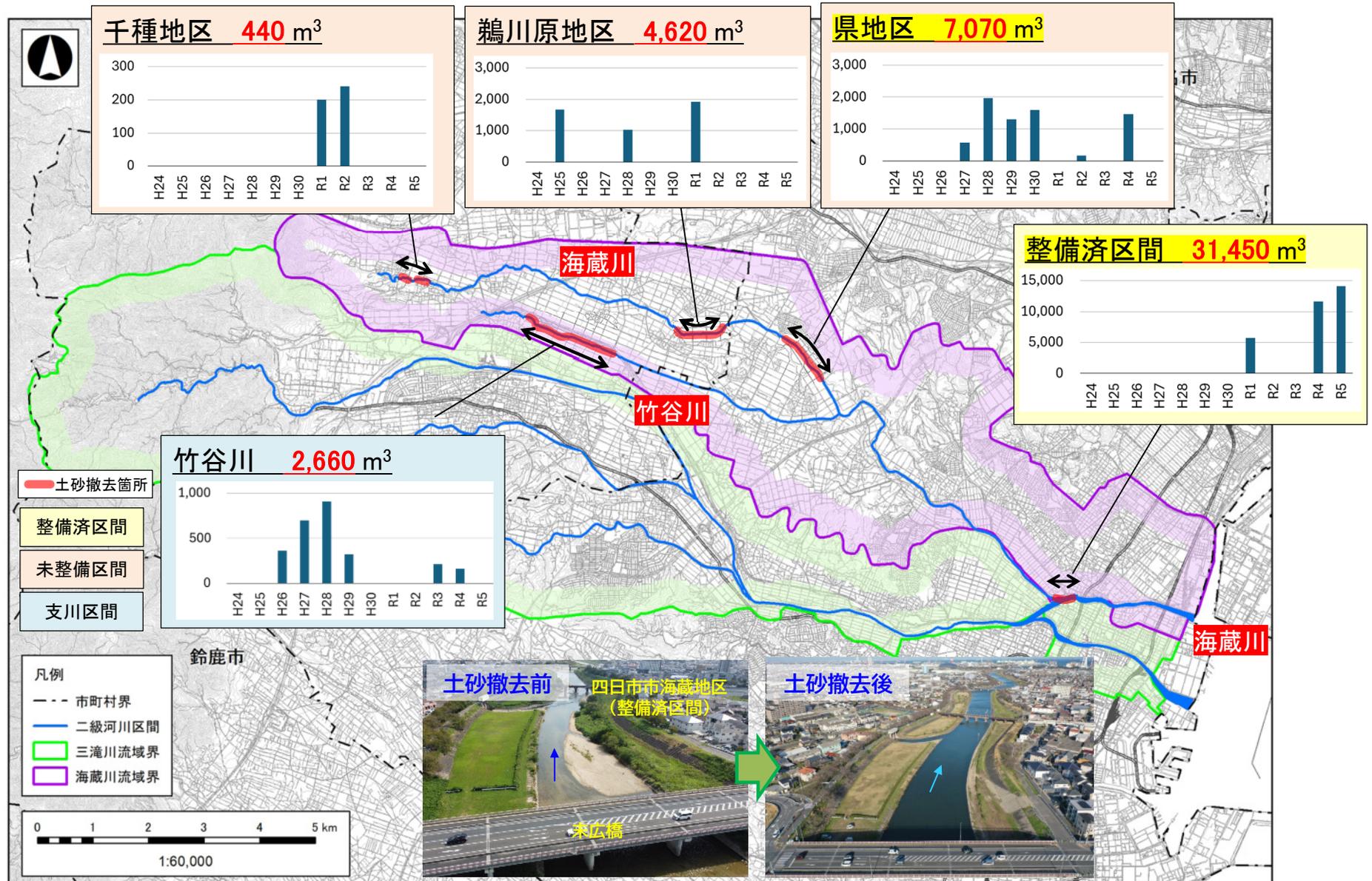
# ■治水の現状と課題（堆積土砂撤去の実績）三滝川

- 堆積土砂撤去の実績(H24～R5)は、最下流の整備済区間が頻度・量とも多い。
- その他の区間では、狭小区間直上流の菰野大橋付近や、河道屈曲点直上流の矢合川合流点付近も頻度が多い。



# ■治水の現状と課題（堆積土砂撤去の実績）海蔵川

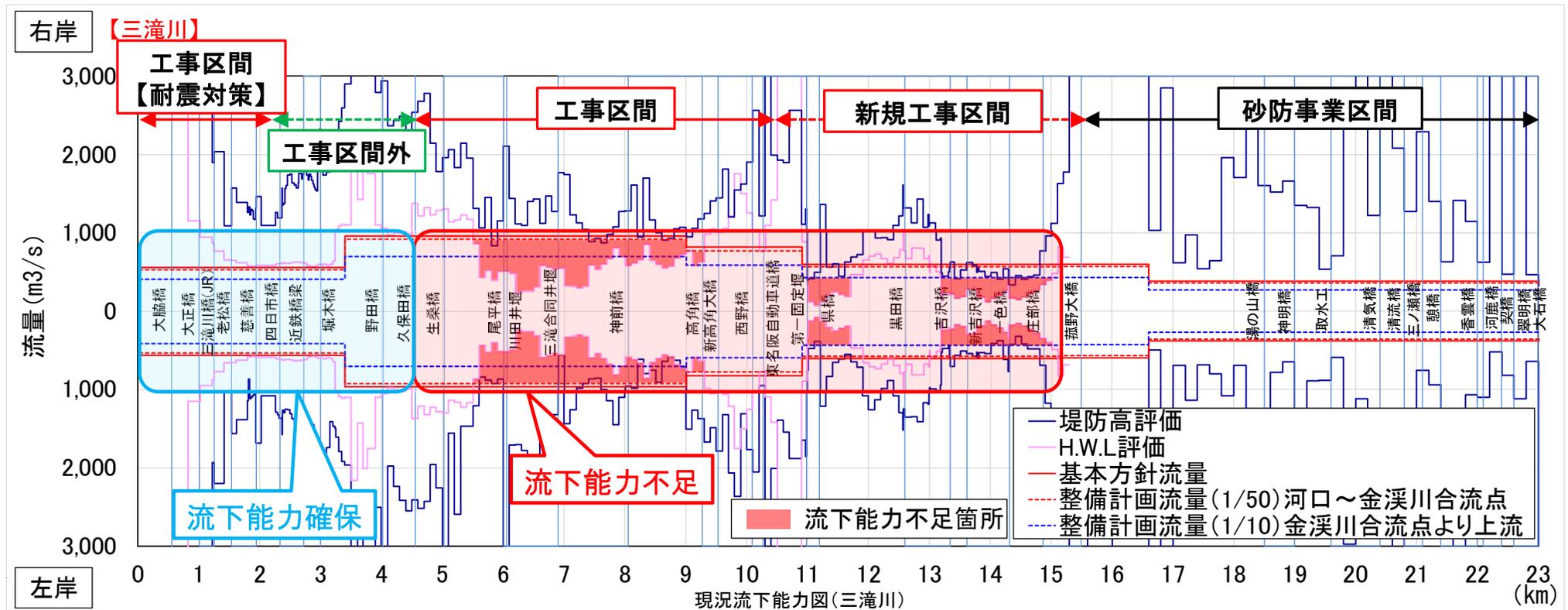
- 堆積土砂撤去の実績(H24~R5)は、下流部の整備済区間で撤去量が多い。
- その他の区間では、中流部の県地区で頻度・量が比較的多い傾向がみられる。



# ■治水の現状と課題（現況流下能力）（三滝川）



- **三滝川**は、洪水対策実施済区間(河口～久保田橋区間)は、気候変動考慮後の降雨(1/50確率)に対して**流下能力を確保している**
- **久保田橋～菰野大橋**区間は対策未実施で、計画高水流量に対する流下能力が不足している



近鉄橋梁架替

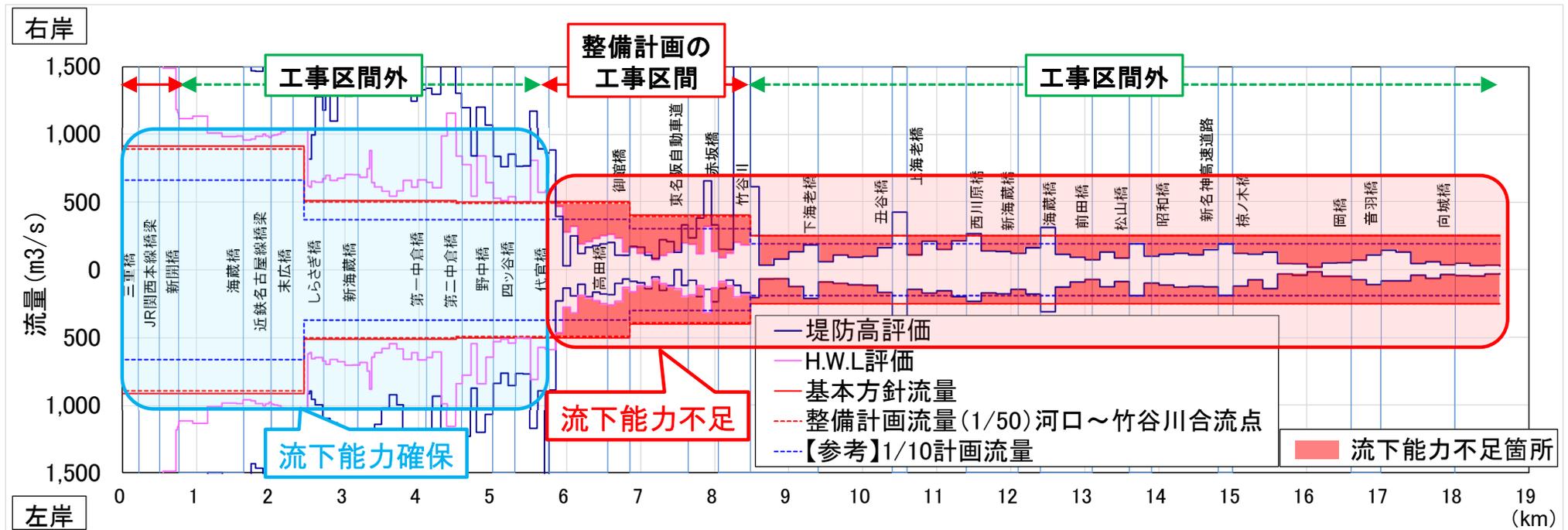
**洪水対策実施済区間の再対策は不要**

# ■治水の現状と課題（現況流下能力）（海蔵川）



- 海蔵川は、洪水対策実施済区間(河口～代官橋区間)は、気候変動考慮後の降雨(1/50確率)に対して流下能力を確保している
- 代官橋より上流は対策未実施で、計画高水流量に対する流下能力が不足している。
- 三滝新川では、**基本方針流量が流下できるよう対策を実施中**

【海蔵川】



【海蔵川】



野中橋～代官橋

**洪水対策実施済区間の再対策は不要**



三滝新川の開削工事状況



## 【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 河口～久保田橋区間において洪水対策実施済であり、<b>気候変動考慮後の降雨（1/50確率）</b>の流下能力を有している。</li> <li>➤ 久保田橋～庄部橋上流落差工（砂防指定区間下流端）は対策未実施であり、計画高水流量に対する流下能力が不足する区間が多く存在している。</li> <li>➤ 砂防指定区間は、計画高水流量に対して十分な流下能力を有している。</li> <li>➤ <b>河川整備計画工事区間外（菰野町区間）</b>についての工事要望が多い。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 流下能力不足区間の解消</li> <li>➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し</li> <li>➤ 整備計画工事区間の見直し検討</li> </ul>

## 【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 河口～代官橋区間において洪水対策実施済であり、<b>気候変動考慮後の降雨（1/50確率）</b>の流下能力を有している。</li> <li>➤ 代官橋から上流区間は対策未実施であり、計画高水流量に対する流下能力が連続して不足している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 流下能力不足区間の解消</li> <li>➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し</li> </ul>

# 利水の現状と課題（水利権）



- **三滝川**水系では、許可水利権5件、慣行水利権27件あり、かんがい用水に利用されている。
- **海蔵川**水系には、許可水利権3件、慣行水利権75件あり、かんがい用水に利用されている。

## 【三滝川の水利権状況】 ( )書きは慣行水利権のうち、取水実態が確認された水利権を示す。

区分	河川名	使用目的	件数	最大取水量	灌漑面積
許可	三滝川	かんがい	3件	3.068m <sup>3</sup> /s※	56.0ha
許可	金溪川	かんがい	2件	0.608m <sup>3</sup> /s	13.8ha
慣行	三滝川	かんがい	8 (3)件	0.573(0.152)m <sup>3</sup> /s	185.6(102)ha
慣行	矢合川	かんがい	7件	0.334m <sup>3</sup> /s	107.5ha
慣行	金溪川	かんがい	12件	0.787m <sup>3</sup> /s	110.2ha
合計			32件	5.370m <sup>3</sup> /s	473.1ha



三滝合同井堰(三滝川6.8k付近)

※うち三重用水による取水量2.7m<sup>3</sup>/s(取水制限流量(夏期0.46m<sup>3</sup>/s冬期0.29m<sup>3</sup>/s)を上回る時のみ取水)

## 【海蔵川の水利権状況】 ( )書きは慣行水利権のうち、取水実態が確認された水利権を示す。

区分	河川名	使用目的	件数	最大取水量	灌漑面積
許可	海蔵川	かんがい	3件	0.189m <sup>3</sup> /s	146.6ha
慣行	海蔵川	かんがい	43(33)件	5.284(4.870)m <sup>3</sup> /s	607.4(579.8)ha
慣行	竹谷川	かんがい	32件	1.041m <sup>3</sup> /s	95.2ha
合計			78件	6.514m <sup>3</sup> /s	849.2ha



福水井堰(海蔵川5.7k付近)

# 利水の現状と課題（三重用水）



- **三重用水**は、牧田川、員弁川、三滝川などから取水した水を中里貯水池や菰野調整池などに貯留し、4市2町※における農業用水の補給や水道用水、工業用水の供給を行っている。
- 両河川流域とも**三重用水**の受益区域となっており、農業用水の安定供給が図られている。

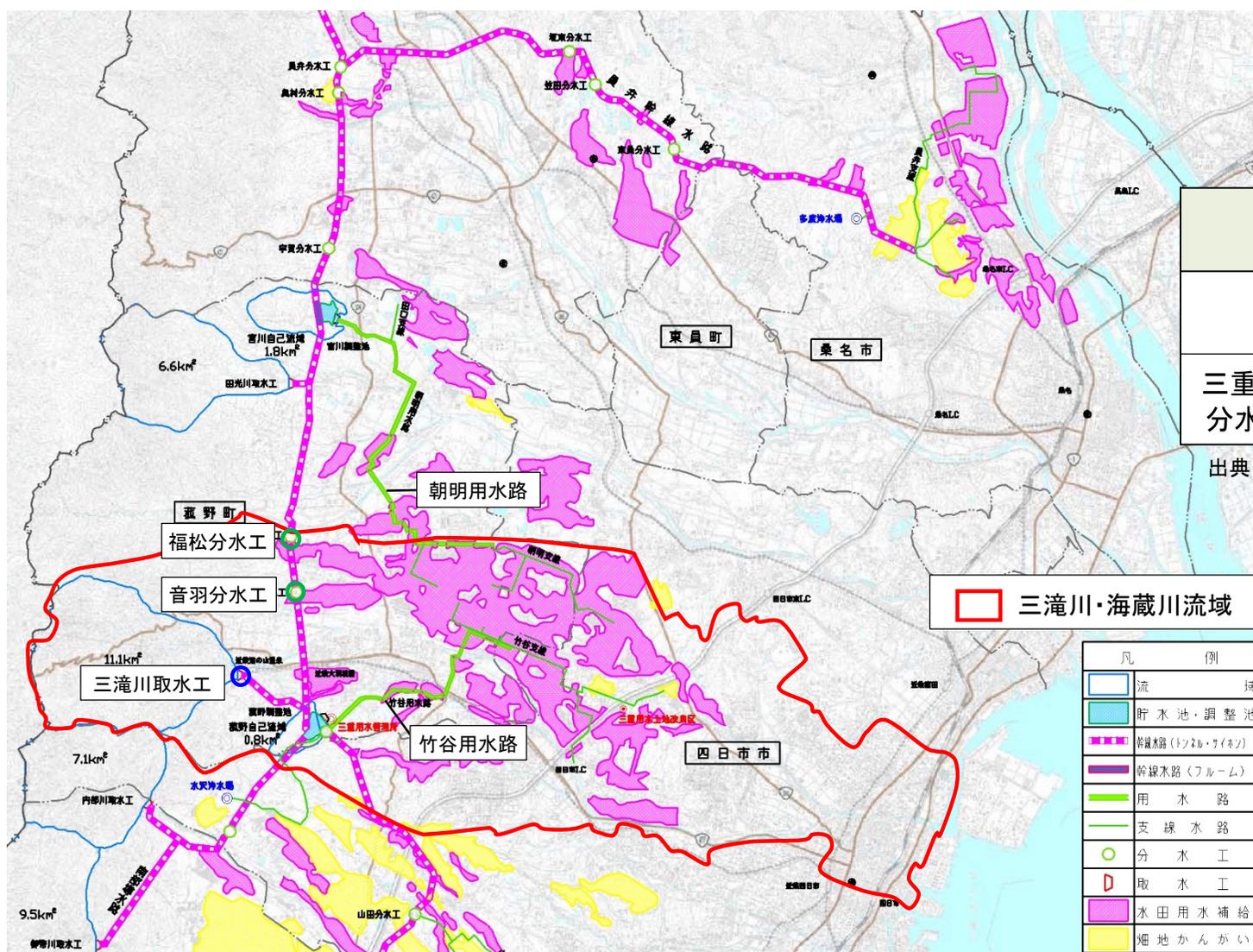
※4市2町：四日市市、いなべ市、桑名市、鈴鹿市、菰野町、東員町

三滝川・海蔵川流域周辺における実績取水量・分水量

区分	施設名	R2～R6平均 (千m <sup>3</sup> /年)
取水量	三滝川取水工	535
三重用水からの分水量(補給量)	-	6,051

出典：水資源機構 三重用水管理所提供データより作成

※農業用水は三重用水からの分水のほか、既存河川等からの取水もある。



出典：三重用水土地改良区HP

- **三滝川**水系では、**上流区間**の渓谷は温泉地と一体的な観光地として、紅葉狩り、水遊びやピクニック等に利用されているほか、**中流区間**では高水敷にグラウンドやジョギングコースが整備され、地域住民のレクリエーションに活用されている。また、**下流区間**や**感潮区間上流部**においては「ふるさとの川モデル事業」として高水敷に芝生広場や遊歩道などが整備され、歴史的な市場（慈善橋市場）があるなど、都市の貴重なオープンスペースとして地域住民の散歩やレクリエーションに利用されているほか、**河口**では、釣り人の姿もみられる。
- **海蔵川**水系では、**中流区間**は川幅が狭く、特に空間利用はされていない。**下流区間**では高水敷が緑地として整備され、市民の憩いの場として利用されているほか、**河口**には球技場、サッカー場がある霞ヶ浦緑地が隣接し、市民のレクリエーションの場として利用されている。



ふるさとの川モデル事業  
（三滝川 慈善橋付近）



三滝川ジョギングコース  
（三滝川 庄部橋付近）



海蔵川緑地  
（海蔵川 末広橋付近）



## 【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 許可水利権5件、慣行水利権27件があり、約473haに及ぶ耕地のかんがい用水として利用されている。</li><li>➢ 観光地や歴史的な市場があるなど、都市の貴重なオープンスペースとして地域住民の散歩やレクリエーションに活用されている。</li><li>➢ アンケート結果からは、散歩やジョギングなど、整備された河川敷や堤防を活動の場とする利用形態が多いことが推察された。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 水利用の効率化を促進し、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境の維持・改善</li><li>➢ 河川愛護のための啓発活動や住民との協働による維持管理等の取り組み</li></ul>

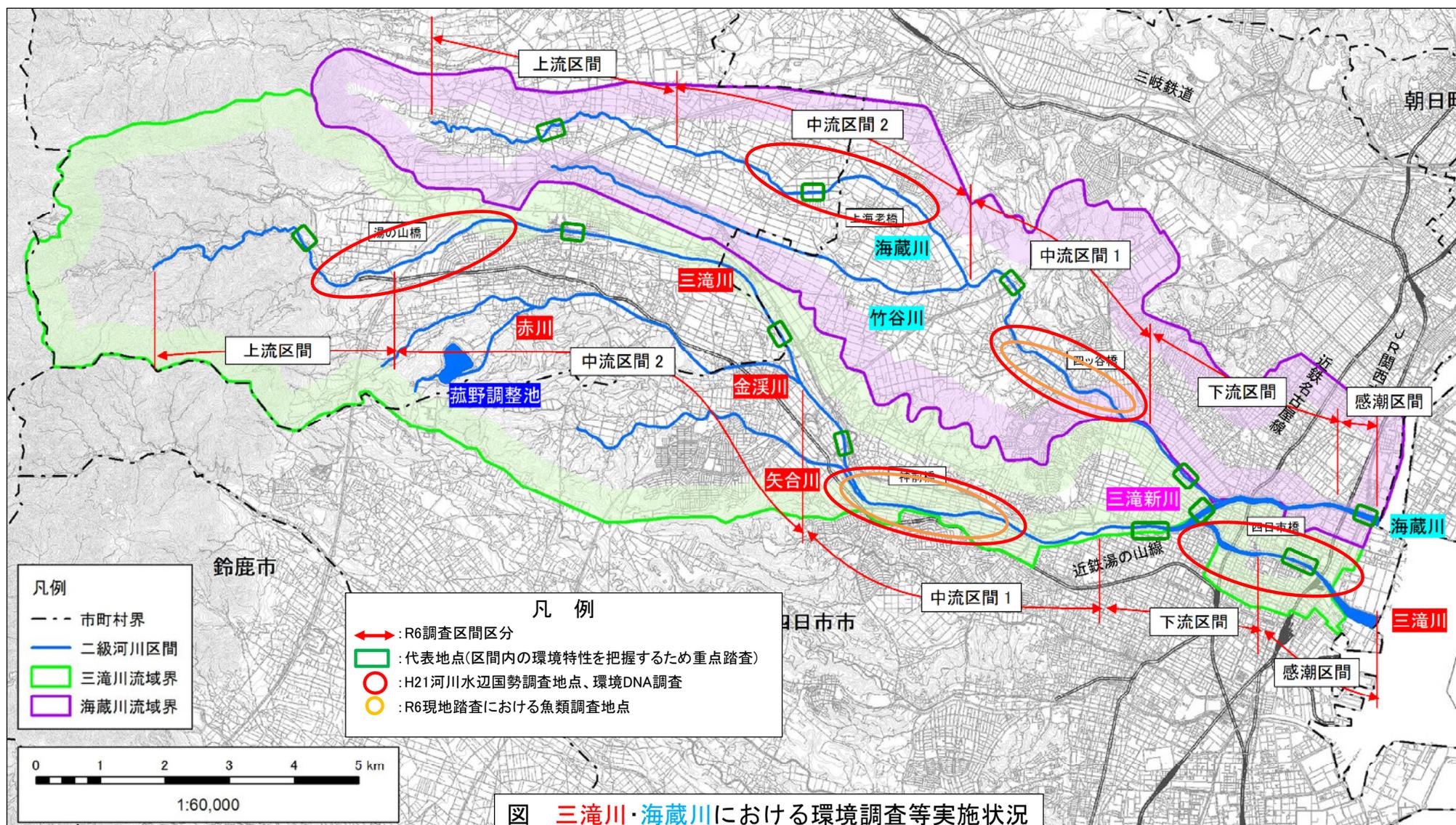
## 【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 許可水利権3件、慣行水利権75件と水利権が多く、約849haに及ぶ耕地のかんがい用水として利用されている。</li><li>➢ 下流区間では高水敷が緑地として整備され、河口には霞ヶ浦緑地が隣接し、市民のレクリエーションの場として利用されている。</li><li>➢ アンケート結果からは、散歩やジョギングなど、整備された河川敷や堤防を活動の場とする利用形態が多いことが推察された。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 水利用の効率化を促進し、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境の維持・改善</li><li>➢ 河川愛護のための啓発活動や住民との協働による維持管理等の取り組み</li></ul>

# 環境の現状と課題（環境調査の概要）



- **三滝川**: 令和6年5月(春季)、11月(秋季)に現地踏査・魚類調査、環境DNA調査を実施。
- **海蔵川**: 令和6年5月(春季)、11月(秋季)に現地踏査・魚類調査、環境DNA調査を実施。
- 平成21年の河川水辺の国勢調査(魚類)では、**三滝川**3地点、**海蔵川**2地点で調査を実施。





□感潮区間:流れは緩やかで河床材料は砂泥。植生はやや乏しい。



老松橋から上流方向

□下流区間:流れは多様で河床材料は砂泥～粗礫。水際にはヨシ等が生育。



野田橋から上流方向

□中流区間1:流れは緩やかで河床材料は砂～中礫。堰による連続性分断あり。



神前橋(三三四2)から上流方向



老松橋から下流方向

感潮区間の状況



野田橋から下流方向

下流区間の状況



神前橋(三三四2)から下流方向

中流区間1の状況



□中流区間2:流れは緩やかで河床材料は砂泥～粗礫。河畔林が連続。伏流区間。



県橋から上流方向

□中流区間3:流れは多様で河床材料は砂質。伏流区間で無水になる時もある。



菰野大橋から上流方向

□上流区間:流れは速く、瀬淵が連続。河床材料は石～岩盤の溪流。河畔林。



老松橋から上流方向



県橋から下流方向

中流区間2の状況



菰野大橋から下流方向

中流区間3の状況



老松橋から下流方向

上流区間の状況



- **三滝川**：魚類調査・環境DNA調査・河川水辺の国勢調査で、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、カマツカ、マハゼ、カワヨシノボリなど**34種**の魚類が確認された。
- **重要種**は、**スナヤツメ**、**ニホンウナギ**、**ドジョウ**、**アカザ**、**ミナミメダカ**、**カマキリ**、**ドンコ**の**7種**を確認。特定外来生物は、**カダヤシ**、**オオクチバス**の**2種**を確認。

## 重要種（魚類）

注) 写真右上の「春」「夏」「秋」は確認時期

## 特定外来生物（魚類）



スナヤツメ(中流) ※H21



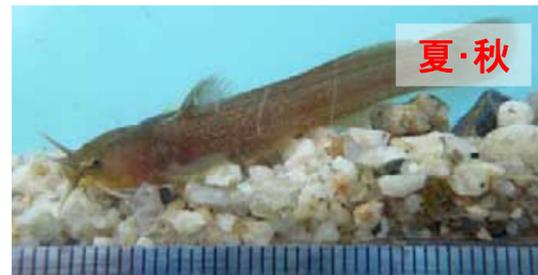
ニホンウナギ(下流) ※H21・環D



カダヤシ(中流) ※H21・R6・環D



ドジョウ(中流) ※H21・環D



アカザ(中流) ※H21・環D



オオクチバス(下流) ※H21



ミナミメダカ(下流・中流) ※H21



カマキリ(下流) ※H21



ドンコ(中流) ※H21・R6・環D

※は確認された調査。H21：H21年度 河川水辺の国勢調査 R6：R6年度 現地踏査 環D：R6年度 環境DNA調査(ただしコピー数200未満の種は信憑性が低いため除外)

# 環境（三滝川：その他生物・植物）



- **三滝川**：現地踏査で、159種（春116種、秋91種）の生物・植物が確認された（魚類を除く）。
- 水辺付近ではヨシ、ツルヨシ、ミゾソバ等の植物、カルガモ、ダイサギ、カワセミ、カワガラス等の動物、河岸付近ではムクノキ、カワヤナギ、マダケ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、クズ等の植物、ウグイス、ムクドリ、コゲラ、トノサマバツタ、シオカラトンボ等の動物を確認。
- 重要種は、カワヂシャ、アオハダトンボ、アキアカネ、ミヤマアカネ、イカルチドリ、コチドリ、トノサマガエルの計7種を確認。特定外来生物は、アレチウリ、オオキンケイギク、ヌートリア等、計6種を確認。

注) 下線の種は秋季調査での追加種

## 重要種（魚類以外）



カワヂシャ(下流・中流)



アオハダトンボ(中流)



アキアカネ(下流・中流)



ミヤマアカネ(中流)



イカルチドリ(中流)



コチドリ(中流)



トノサマガエル(中流)

注) 写真左上の「春」「秋」は確認時期

## 特定外来生物（魚類以外）



アレチウリ(下流・中流)



オオカワヂシャ(下流・中流)



オオキンケイギク(中流)



ウシガエル(中流)



ヌートリア(下流・中流)



アライグマ 画像出典：環境省  
提供資料  
(下流・中流)



□感潮区間：流れは緩やかで河床材料は砂泥。植生は乏しい。



霞ヶ浦パークブリッジから上流方向

□下流区間：流れは緩やかで河床材料は砂泥。水際にはヨシ等が生育。



新海蔵橋から上流方向

□中流区間1：流れは多様で河床材料は砂泥～中礫。堰による湛水域が多い。



四ッ谷橋(海海四1)から上流方向



霞ヶ浦パークブリッジから下流方向

感潮区間の状況



新海蔵橋から下流方向

下流区間の状況



四ッ谷橋(海海四1)から下流方向

中流区間1の状況

# ■環境（海蔵川：河川環境） 中流域～上流域・三滝新川

□中流区間2:流れは多様で河床材料は砂泥～中礫。河道内にツルヨシ繁茂。



新海蔵橋から上流方向

□上流区間:流れは単調で河床材料は砂泥～中礫。河道内にツルヨシ。



岡橋から上流方向

□三滝新川:通常時には流水はほぼなく、現在は掘削工事中。



末永橋から上流方向



新海蔵橋から下流方向

中流区間2の状況



岡橋から下流方向

上流区間の状況



末永橋から下流方向

三滝新川の状況



- 海蔵川：魚類調査・環境DNA調査・河川水辺の国勢調査で、オイカワ、カワムツ、イトモロコ、ミナミメダカ、カワヨシノボリなど**23種**の魚類が確認された。
- 重要種は、**スナヤツメ、イトモロコ、ドジョウ、ミナミメダカ、ドンコ**の**5種**を確認。
- 特定外来生物は、**ブルーギル**の**1種**を確認。

## 重要種（魚類）



スナヤツメ(中流) ※H21



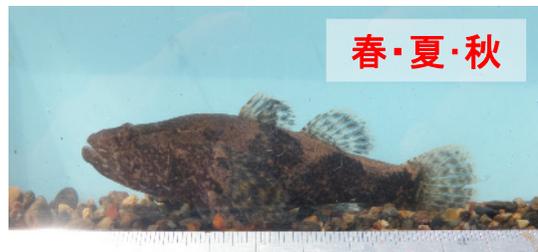
イトモロコ(中流) ※H21・R6・環D



ドジョウ(中流) ※H21・環D



ミナミメダカ(中流) ※H21・R6・環D



ドンコ(中流) ※H21・R6・環D

注)写真右上の「春」「夏」「秋」は確認時期

## 特定外来生物（魚類）



ブルーギル(中流) ※H21

※は確認された調査。H21：H21年度 河川水辺の国勢調査 R6：R6年度 現地踏査 環D：R6年度 環境DNA調査(ただしコピー数200未満の種は信憑性が低いため除外)

# 環境（海蔵川：その他生物・植物）



- **海蔵川**:136種(春96種、秋85種)の生物・植物が確認された(魚類を除く)。
- 水辺付近ではツルヨシ、ミゾソバ等の植物、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、ニホンイシガメ等の動物、河岸付近ではエノキ、マダケ、セイバンモロコシ等の植物、ヒバリ、ムクドリ、モズ等の動物を確認。
- 重要種はカワヂシャ、ナガオカモノアラガイ、アキアカネ、コガムシ等、計10種を確認。
- 特定外来生物は、オオフサモ、アレチウリ、オオキンケイギク、ヌートリア等の計9種を確認。

注)下線の種は秋季調査での追加種

## 重要種(魚類以外)



春

カワヂシャ(下流)



春

ナガオカモノアラガイ(中流)



春

写真は三滝川

アオハダトンボ(中流)



秋

アキアカネ(中流・上流)



春

コガムシ(中流)



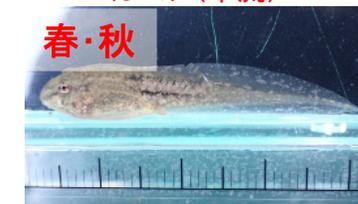
春

ヤマトアシナガバチ(下流)



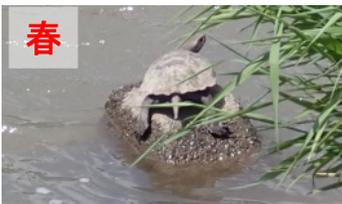
秋

ミサゴ(下流)



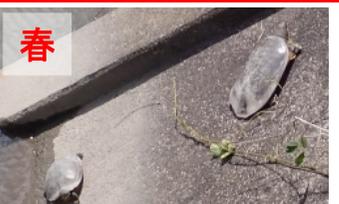
春・秋

トノサマガエル(中流)



春

ニホンイシガメ(下流・中流)



春

ニホンスッポン(下流・中流)

注)写真左上の「春」「秋」は確認時期



春・秋

アライグマ(中流)

画像出典：環境省提供資料

## 特定外来生物(魚類以外)



春

オオフサモ(下流・中流)



春・秋

アレチウリ(中流)



春

オオカワヂシャ(中流)



秋

オオキンケイギク(中流)



春

アメリカザリガニ(中流)



秋

ウシガエル(中流)



春・秋

ミシシッピアカミミガメ(下流・中流)



春・秋

ヌートリア(下流・中流)



- **三滝新川**：流水はごくわずかで、現地踏査時には掘削工事中。
- 現地踏査の結果、イグサ、ヨシ、クズ、セイタカアワダチソウ等の植物、ダイサギ、カワセミ、ムクドリ、シオカラトンボ等の動物、併せて46種（春25種、秋33種）の生物が確認された。
- 重要種は、カワヂシャ、アキアカネの2種を確認。
- 特定外来生物は、オオフサモ、アレチウリ、ミシシippアカミミガメ、ヌートリアの計4種を確認。

注) 下線の種は秋季調査での追加種



末永橋から下流方向



末永橋から上流方向

上流区間の状況

## 重要種



春

カワヂシャ



秋

写真は三滝川

アキアカネ

## 特定外来生物



春・秋

オオフサモ



春

アレチウリ



春・秋

ミシシippアカミミガメ

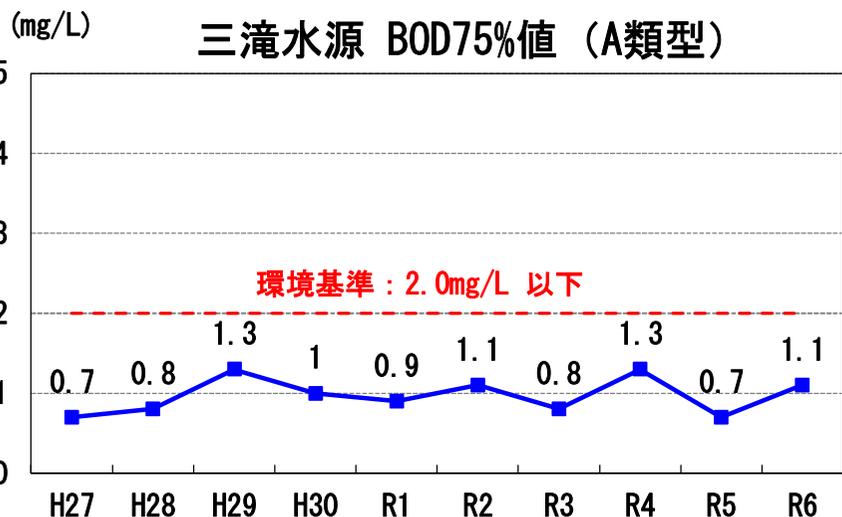


秋

写真は海蔵川

ヌートリア

# 環境の現状と課題（河川水質）（三滝川）

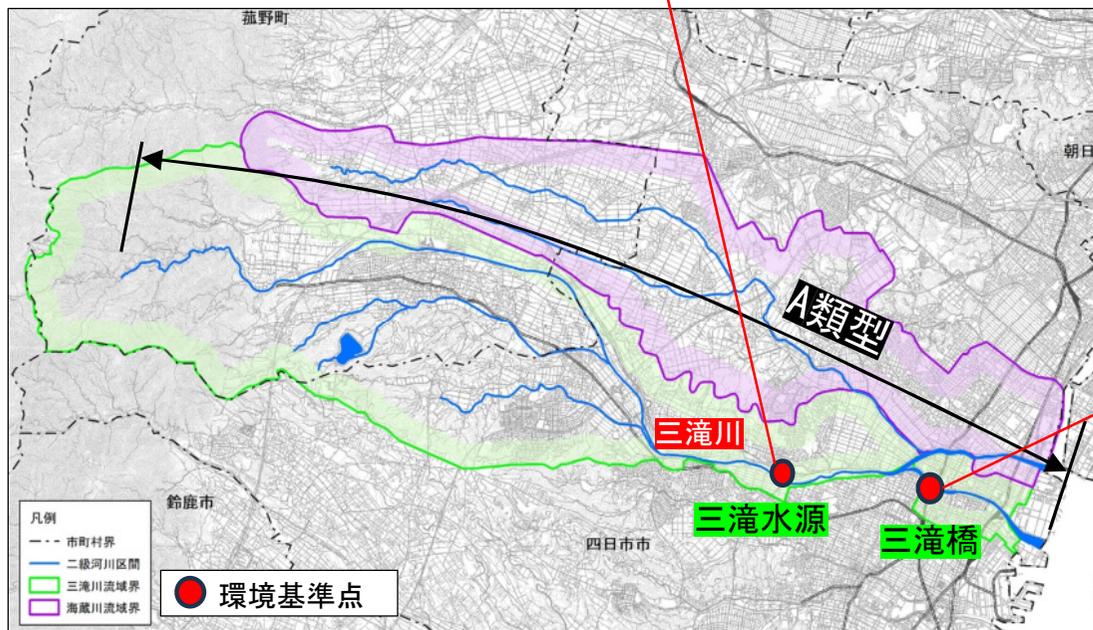


## □水質調査の実施状況

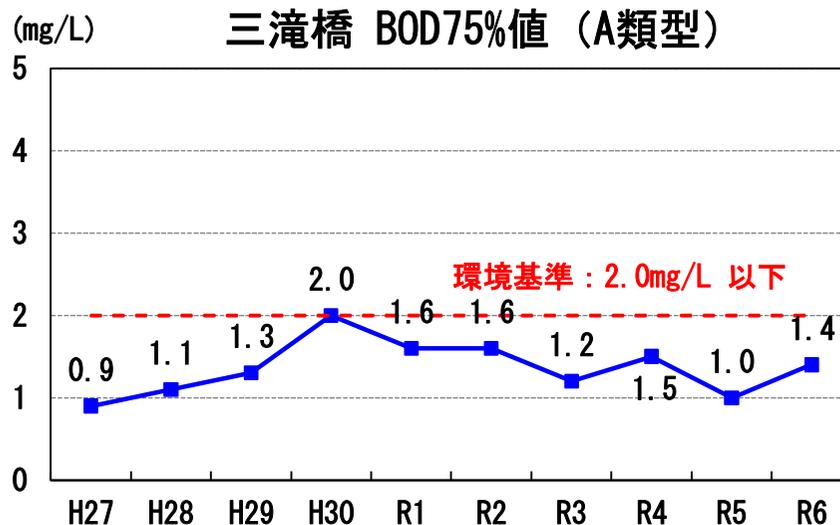
- 三滝川では、三滝橋と三滝水源の2地点において、定期的な水質調査が行われている。

## □環境基準の達成状況

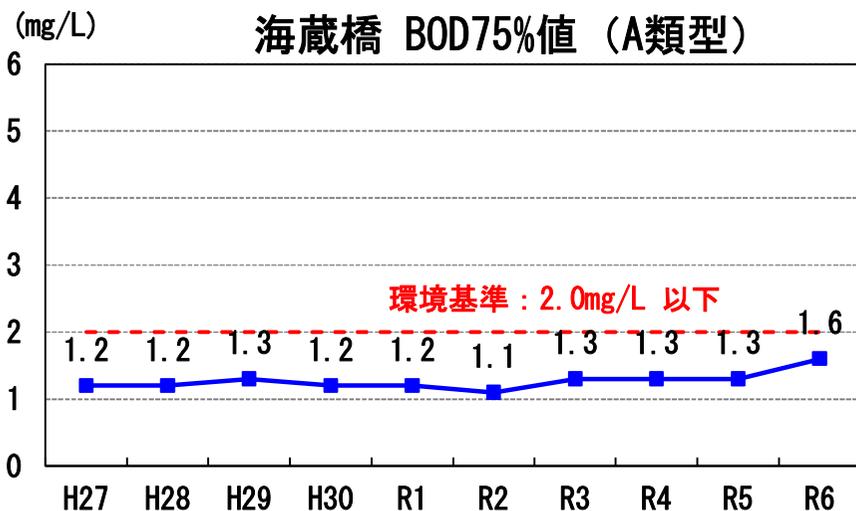
- 三滝川は環境基準A類型に指定されている。
- BOD75%値の近年の経年変化は、三滝水源で0.7~1.3mg/L、三滝橋で1.0~2.0mg/Lであり、ともに環境基準(A類型2mg/L)を満足している。



三滝川の類型指定および水質基準点位置図



# 環境の現状と課題（河川水質）（海蔵川）

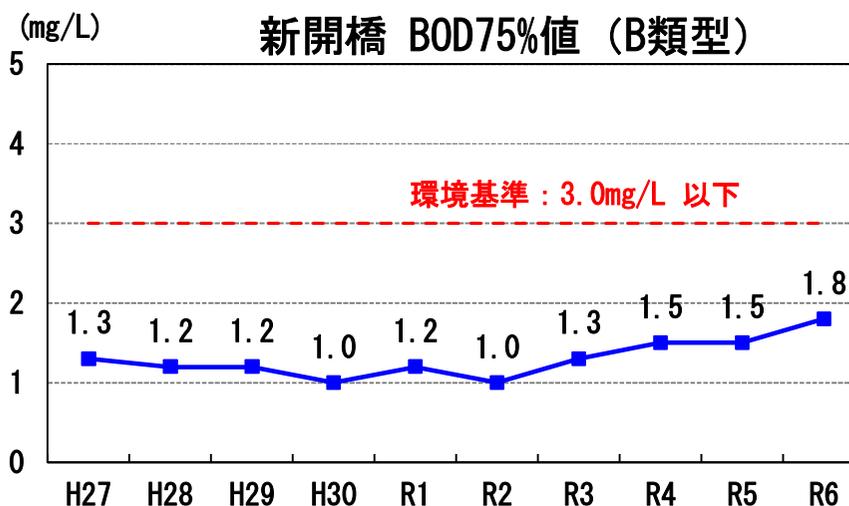
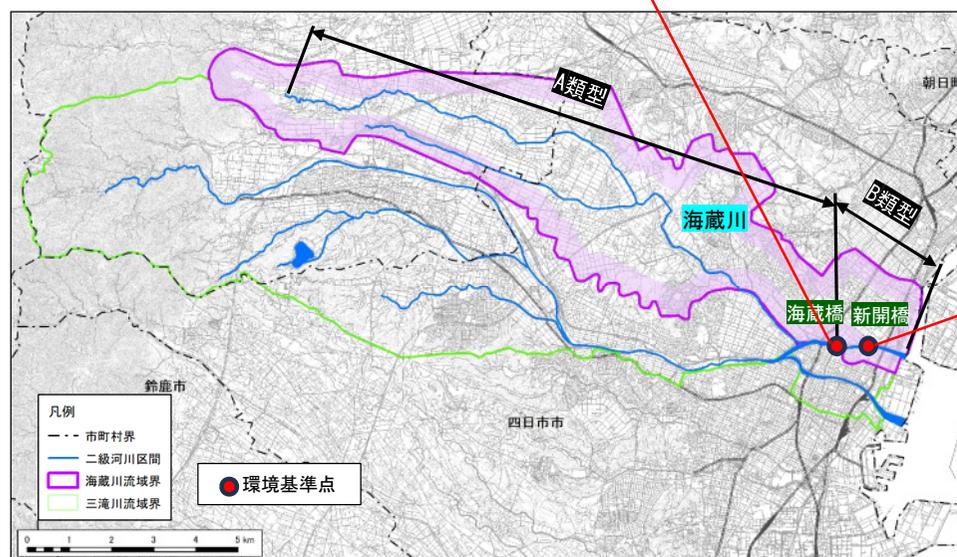


## □水質調査の実施状況

- 海蔵川では、新開橋と海蔵橋の2地点において、定期的な水質調査が行われている。

## □環境基準の達成状況

- 海蔵川は上流区間が環境基準A類型、下流区間が環境基準B類型に指定されている。
- BOD75%値の近年の経年変化は、上流区間の海蔵橋で1.1~1.6mg/L、下流区間の新開橋で1.0~1.8mg/Lで、ともに環境基準(A類型2mg/L、B類型3mg/L)を満足している。



海蔵川の類型指定および水質基準点位置図



## 【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 河口2k付近までは感潮区間であり、小規模な干潟がみられる。</li> <li>➤ 下流域はヨシ群落などの水際植生があり、水域では回遊魚・汽水魚・淡水魚など多様な魚種が生息する。</li> <li>➤ 中流域～上流域は河畔林が多くみられ、樹林性鳥類が生息するほか、水域ではスナヤツメやアカザなどの重要種もみられる。</li> <li>➤ 全区間で良好な水質が維持されている。</li> <li>➤ アンケート結果から、河畔の樹林帯は自然の豊かさを感じさせる一方で、水害に対する不安要素のひとつにもなっている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全・創出</li> <li>➤ 良好な水質の保持</li> </ul>

## 【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 下流域はクサヨシ群落などの水際植生があり、緩やかな流れの水域ではカモ類やサギ類などの鳥類がみられる。</li> <li>➤ 中流域は、かんがい期には堰上げによる湛水域が多くみられ、イトモロコやミナミメダカなど緩やかな流れを好む魚種が多くみられる。</li> <li>➤ 中流域～上流域は、水際にツルヨシ、法面にチガヤ等の植生が繁茂する。</li> <li>➤ アンケート結果から、約半数の人が自然が豊かな川と感じており、多くは植生が豊かであることを理由に挙げている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全・創出</li> <li>➤ 良好な水質の保持</li> </ul>



# 目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]
- 4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]**
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]**
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]
5. 今後の進め方 [一部更新]



## 河川整備計画の対象区間（三滝川）

対象区間は三滝川およびその支川の県管理区間すべてとする。

主要な河川

水系名	河川名	起点		終点	延長m
三滝川	幹川 三滝川	三重郡菰野町大字菰野字湯の山大石橋上流 320 <sup>㍊</sup> 砂防堰堤		海に至る	23,255
	三滝川支川 矢合川	左岸	四日市市桜町字猪狭4276番の1地先 (矢合妹橋)	三滝川への 合流点	6,000
		右岸	同市同町字坊主尾4392番の1地先		
	三滝川支川 金溪川	左岸	三重郡菰野町大字菰野字金谷8320番地先 (谷川落合)	三滝川への 合流点	7,418
		右岸	同町同大字字蔭谷8305番地先		
	金溪川支川 赤川	左岸	三重郡菰野町大字菰野字黒兀8271番地先	金溪川への 合流点	2,560
		右岸	同町同大字同字8272番地先		

## 河川整備計画の対象期間（三滝川）

- 本河川整備計画は、三滝川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その計画対象期間は概ね30年間とする。
- 本整備計画は、現時点における流域及び河川の状況に基づき策定されたものであり、今後河川および流域を取り巻く社会状況の変化などに合わせて、必要に応じて適宜見直しを行っていくものである。

## 河川整備計画の対象区間（海蔵川）

対象区間は海蔵川およびその支川の県管理区間すべてとする。

主要な河川

水系名	河川名	起点		終点	延長m
海蔵川	幹川 海蔵川	左岸	三重郡菰野町大字千草字城岬2593番地先	海に至る	18,725
		右岸	同町同大字同字2599番地先		
	海蔵川支川 三滝新川	三滝新川分派点		海蔵川への 合流点	700
	海蔵川支川 竹谷川	菰野町大字音羽字小池444番地先の県道橋 (中堀橋)		海蔵川への 合流点	7,450

## 河川整備計画の対象期間（海蔵川）

- 本河川整備計画は、海蔵川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その計画対象期間は概ね30年間とする。
- 本整備計画は、現時点における流域及び河川の状況に基づき策定されたものであり、今後河川および流域を取り巻く社会状況の変化などに合わせて、必要に応じて適宜見直しを行っていくものである。

## 洪水・津波・高潮等による災害の発生<sup>の</sup>防止または軽減に関する目標 （三滝川）

- 本整備計画では、過去の流域内の浸水被害や県内他河川の治水安全度のバランス等を踏まえ、気候変動による影響を考慮した計画規模とする。
- 久保田橋付近～金溪川合流点(4.5km付近～10.6km付近)は、気候変動による影響を考慮した年超過確率1/50の規模の降雨による洪水に対して甚大な被害を防ぐことを目標とする。これにより、野田基準地点において920m<sup>3</sup>/sを安全に流下させる河道を整備する。
- また、金溪川合流点～菰野大橋付近(10.6km付近～15.5km付近)は、気候変動による影響を考慮した年超過確率1/10の規模の降雨による洪水に対して甚大な被害を防ぐことを目標とする。
- そのほか、気候変動の影響による計画規模を上回る洪水や、整備途中段階で施設能力以上の出水が発生した場合に備え、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策(流域治水)について、関係機関と連携して推進する。さらに、関係機関や地域住民と連携して情報伝達および警戒避難体制の整備を行う。



## 洪水・津波・高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標 （海蔵川）

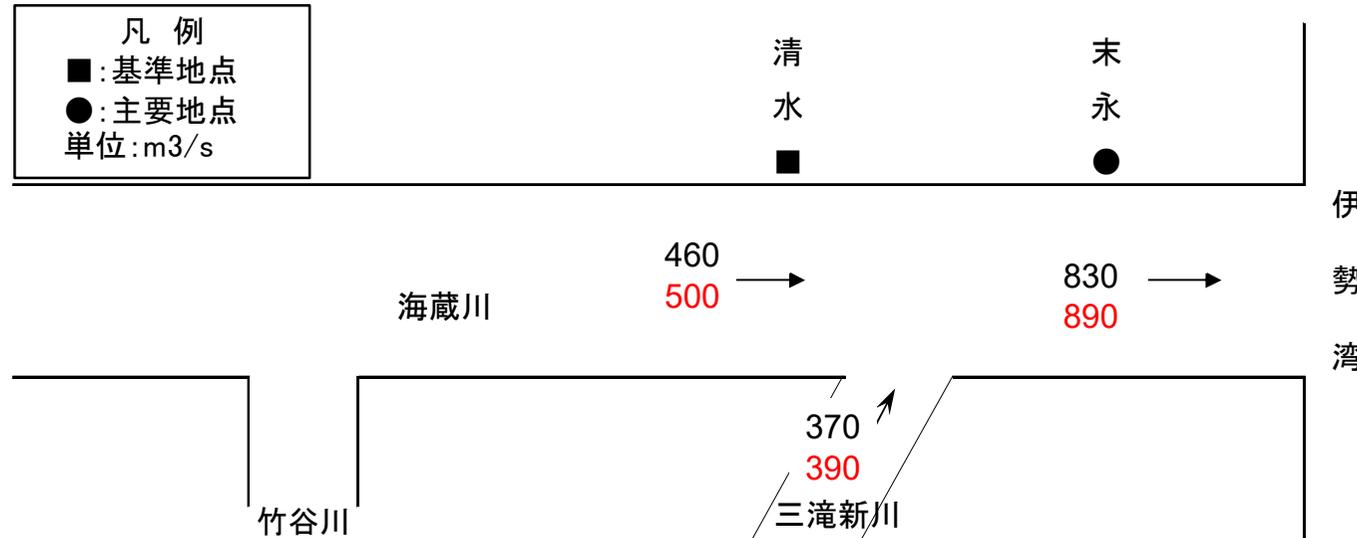
- 本整備計画では、過去の流域内の浸水被害や県内他河川の治水安全度のバランス等を踏まえ、気候変動による影響を考慮した計画規模とする。
- 気候変動による影響を考慮した年超過確率1/50の規模の降雨による洪水に対して甚大な被害を防ぐことを目標とする。これにより、清水基準地点において500m<sup>3</sup>/sを安全に流下させる河道を整備する。
- そのほか、気候変動の影響による計画規模を上回る洪水や、整備途中段階で施設能力以上の出水が発生した場合に備え、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策（流域治水）について、関係機関と連携して推進する。さらに、関係機関や地域住民と連携して情報伝達および警戒避難体制の整備を行う。

# 河川整備計画の目標に関する事項（計画高水流量）



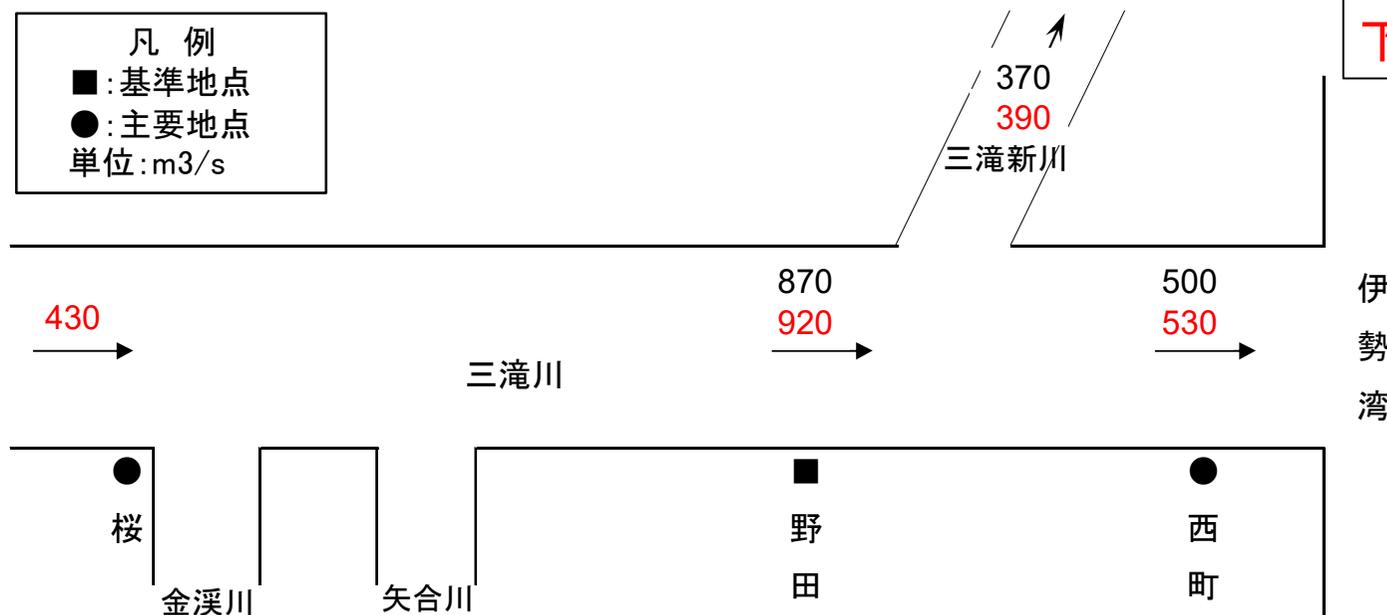
## （海蔵川）

凡例  
 ■：基準地点  
 ●：主要地点  
 単位：m<sup>3</sup>/s



## （三滝川）

凡例  
 ■：基準地点  
 ●：主要地点  
 単位：m<sup>3</sup>/s



上段：既往計画  
 下段：見直し計画



## □ 既往計画と整備計画の変更点（三滝川）

	河川整備計画 （平成17年度策定）		河川整備計画 （気候変動考慮）	
計画規模	1/50確率	1/50確率	1/10確率	
基準地点	野田	野田	桜	
流域面積	57.36km <sup>2</sup>	57.36km <sup>2</sup>	27.28km <sup>2</sup>	
洪水到達時間	119分	119分	61分	
流出係数	0.72	0.73	0.72	
計画降雨 （野田地点）	466mm/日	485mm/日 気候変動考慮	394mm/日 気候変動考慮	
降雨強度 （野田地点）	75.4mm/hr	78.6mm/hr 気候変動考慮	77.9mm/hr 気候変動考慮	
流出計算手法	合理式	合理式	合理式	
計画高水流量	870m <sup>3</sup> /s	920m <sup>3</sup> /s （既往計画比106%）	430m <sup>3</sup> /s	



## □ 既往計画と整備計画の変更点（海蔵川）

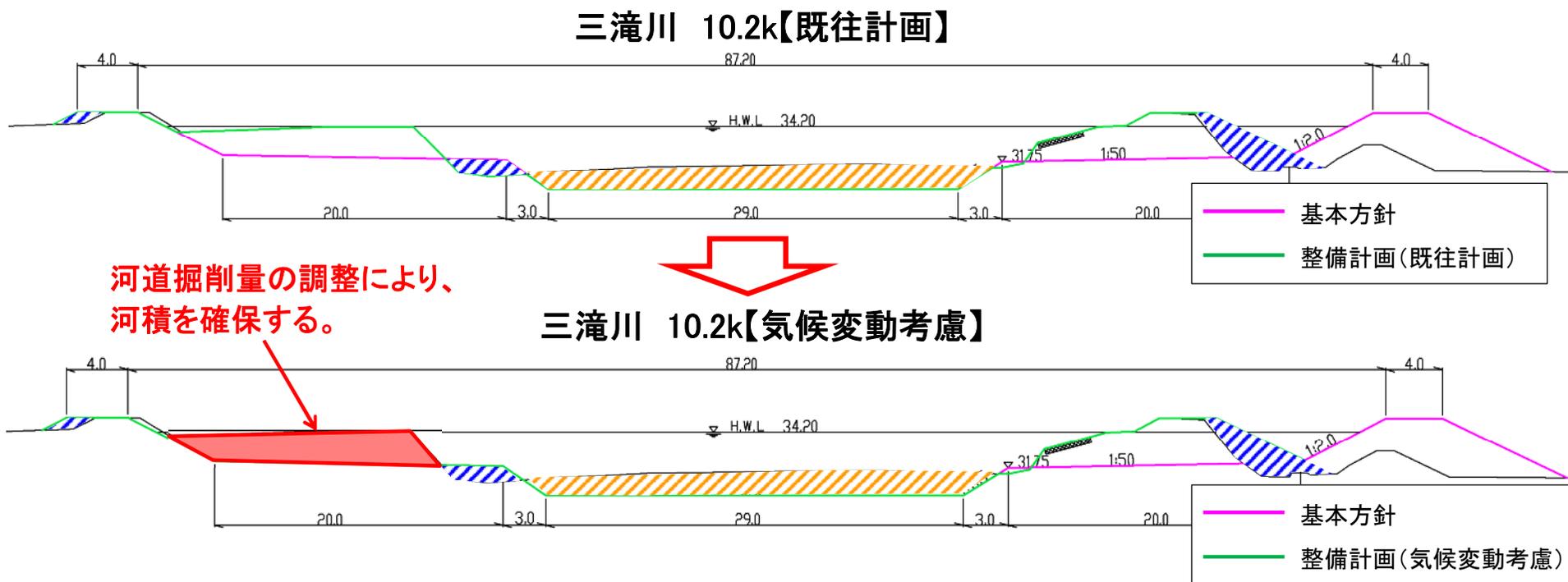
	河川整備計画 （平成17年度策定）	河川整備計画 （気候変動考慮）
計画規模	1/50確率	1/50確率
基準地点	清水	清水
流域面積	36.02km <sup>2</sup>	36.02km <sup>2</sup>
洪水到達時間	121分	121分
流出係数	0.71	0.73
計画降雨 （清水地点）	396mm/日	416mm/日 気候変動考慮
降雨強度 （清水地点）	64.2mm/hr	67.3mm/hr 気候変動考慮
流出計算手法	合理式	合理式
計画高水流量	460m <sup>3</sup> /s	500m <sup>3</sup> /s （既往計画比109%）

# 河道計画（標準断面の設定方針）（三滝川）

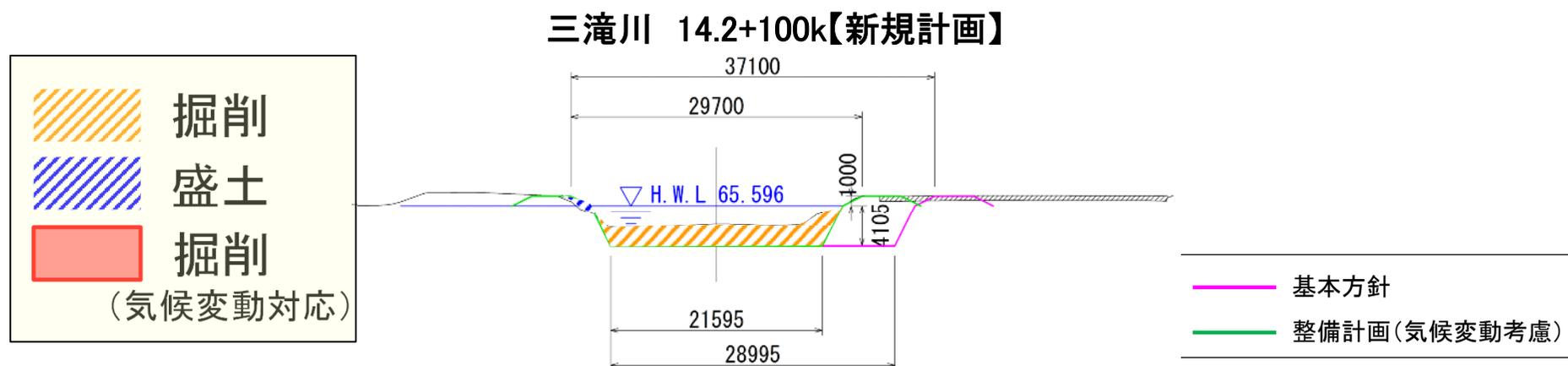


- 既往計画区間は、既往計画で設定された低水路断面を整備し、高水敷部等の掘削量の調整により、気候変動による流量増加に必要な河積を確保する。
- 新規工事区間は、計画高水流量を計画高水位以下で安全に流下させる断面を設定する。

既往計画区間



新規工事区間

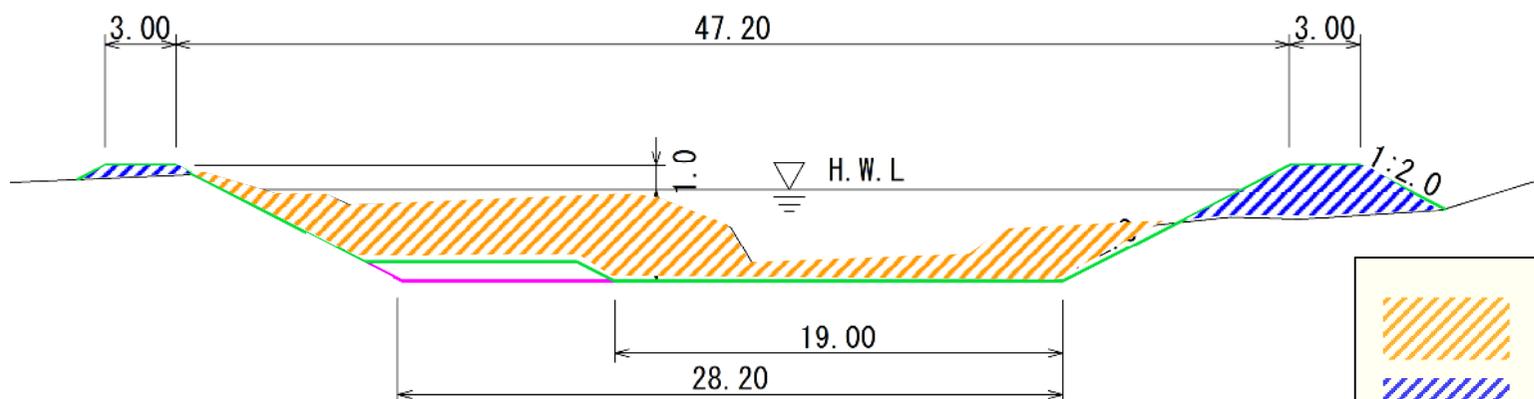


# 河道計画（標準断面の設定方針）（海蔵川）



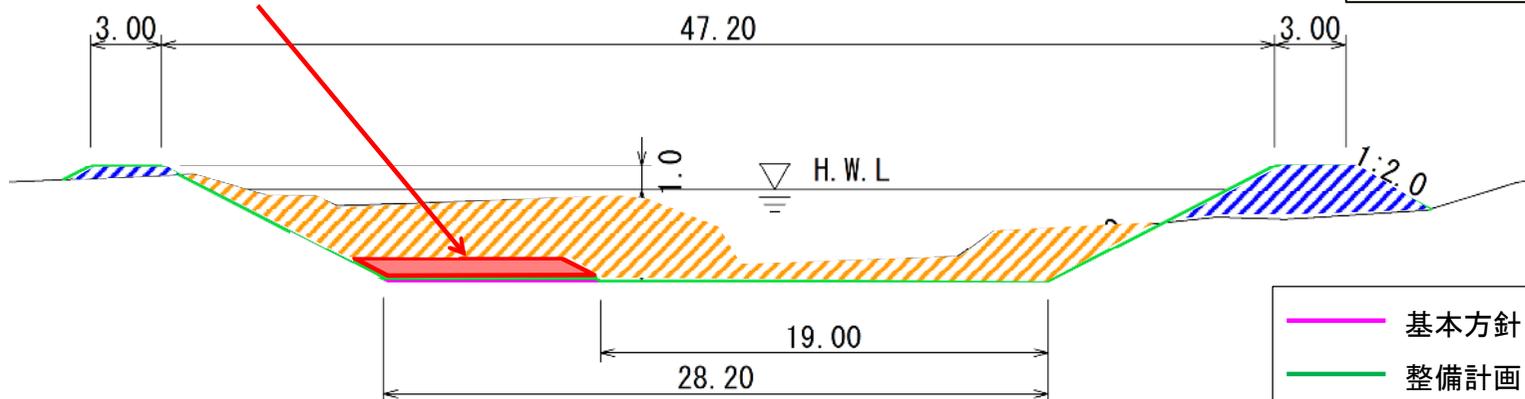
- 計画全区間は、既往計画で設定された低水路断面を整備し、高水敷部等の掘削量の調整により、気候変動による流量増加に必要となる河積を確保する。

海蔵川 6.3k+53【既往計画】



河道掘削量の調整により、  
河積を確保する。  
(一部掘り残しあり)

海蔵川 6.3k+53【気候変動考慮】



	掘削
	盛土
	掘削 (気候変動対応)

	基本方針
	整備計画(気候変動考慮)

既往計画  
区間



## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 （三滝川・海蔵川）

- 今後とも関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるよう努めるとともに、綿密な情報提供等、水利用の効率化を促進し、さらに既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境が維持・改善されることを目標とする。
- 流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、今後流況の把握を行うとともに取水実態や動植物の生息・生育環境等の調査を行った上で設定に努める。



## 河川環境の整備と保全に関する目標（三滝川）（1）

- 河川環境の整備と保全に関しては、流域内河川の自然環境及び利水の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全と整備に努める。
- 上流部においては、優れた景観やオオルリ、カワガラス等の多様な生物に対して良好な生息・生育環境を提供している渓谷林など豊かな溪流環境の保全・創出に努める。
- 田園地帯を流れる中流部においては、エナガ、コゲラ等の鳥類の生息場・避難場となっている河畔林や、スナヤツメ、アカザ等の希少種を含む多様な生物の良好な生息環境となっている瀬・淵、水際植生について、治水対策との調和を図りつつ保全・創出に努める。



## 河川環境の整備と保全に関する目標（三滝川）（2）

- 都市部を流れる下流部においては、ウグイ、ギンブナ等の魚類の良好な生息環境となっている瀬・淵・水際植生について、治水対策との調和をはかりつつ保全・創出に努める。
- 河口部においては、四日市工業地帯に残る鳥類や魚介類などの生物の貴重な生息場である干潟の保全・創出に努める。
- 河川空間の利用に関しては、流域の豊かな自然環境や地域の風土・歴史・文化を踏まえ、治水機能や自然との調和に配慮しつつ、多様なレクリエーション、人々の触れあい、安らぎの空間や市街地周辺における豊かな自然環境を有する空間、歴史性を有する市場などが調和した空間として活用、保全に努める。



## 河川環境の整備と保全に関する目標（海蔵川）

- 河川環境の整備と保全に関しては、流域内河川の自然環境及び利水の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全と整備に努める。
- 田園地帯を流れる中流部においては、鳥類の生息場・避難場となっている河畔林や、イトモロコ、ミナミメダカ等の希少種を含む多様な生物の良好な生息環境となっている瀬・淵、水際植生について、治水対策との調和を図りつつ保全・創出に努める。
- 都市部を流れる下流部においては、オイカワ、タモロコ等の魚類の良好な生息環境となっている瀬・淵・水際植生について、治水対策との調和をはかりつつ保全・創出に努める。
- 河口部においては、四日市工業地帯に残る鳥類や魚介類などの生物の貴重な生息場である干潟の保全・創出に努める。



# 目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]
- 4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]**
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]**
5. 今後の進め方 [一部更新]





## 河川整備の実施に関する事項（三滝川）

### 河川工事の目的

洪水時の河川水位を低下させ整備目標流量を安全に流すことを目的として、河床掘削、護岸整備により河積を増大し、洪水被害の防止を図る。

- 工事に際しては、動植物の生息・生育環境や歴史・文化、埋蔵文化財の存在などに配慮するとともに、良好な水辺空間の保全を図る。
- 掘削に伴って改築が必要な橋梁や取水施設については、施設管理者等と協議の上、新設・改築または撤去する。

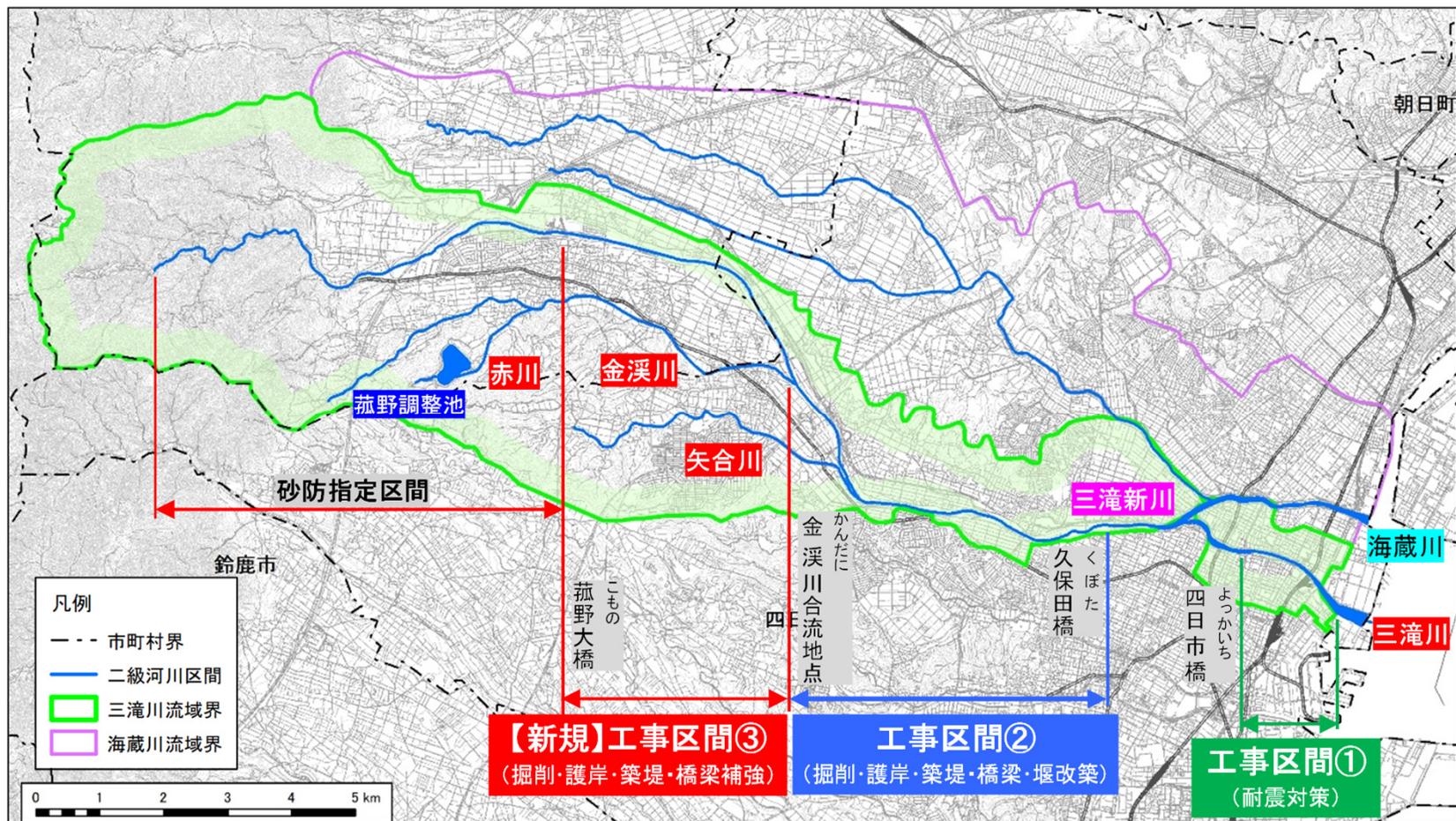
### 河川改修の施行場所と主な整備内容

河川名	区間	主な整備内容
三滝川	①大正橋付近～四日市橋付近 (1.0km付近～2.3km付近)	耐震対策
	②久保田橋付近～金溪川合流点 (4.5km付近～10.6km付近)	掘削・築堤・護岸 堰改築
	③金溪川合流点～菰野大橋付近 (10.6km付近～15.5km付近)	掘削・築堤・護岸・ 橋梁補強

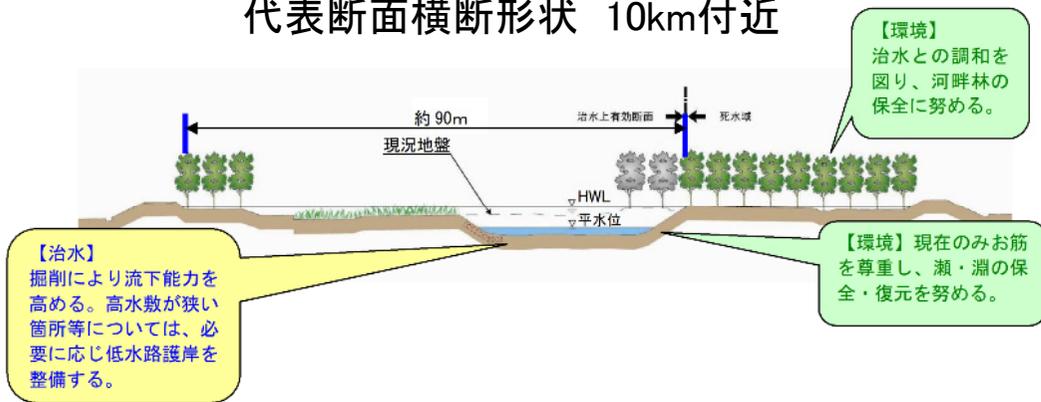
# 河川整備の実施に関する事項（計画平面図・横断図）



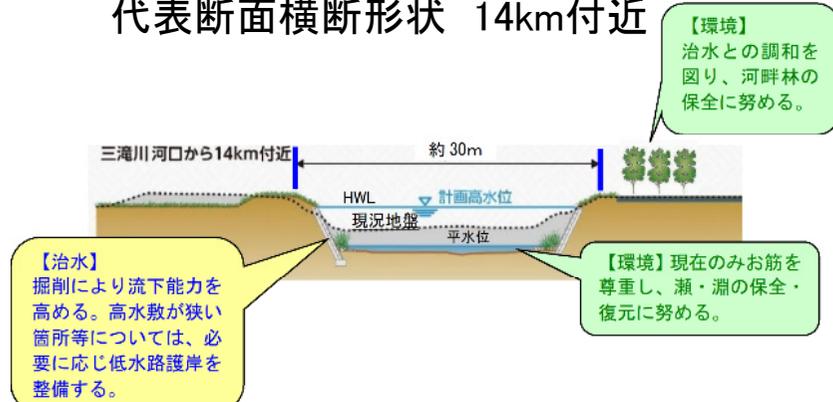
## （三滝川）



代表断面横断形状 10km付近



代表断面横断形状 14km付近





## 河川整備の実施に関する事項（海蔵川）

### 河川工事の目的

洪水時の河川水位を低下させ整備目標流量を安全に流すことを目的として、河床掘削、護岸整備により河積を増大し、洪水被害の防止を図る。

- 工事に際しては、動植物の生息・生育環境や歴史・文化、埋蔵文化財の存在などに配慮するとともに、良好な水辺空間の保全を図る。
- 掘削に伴って改築が必要な橋梁や取水施設については、施設管理者等と協議の上、新設・改築または撤去する。

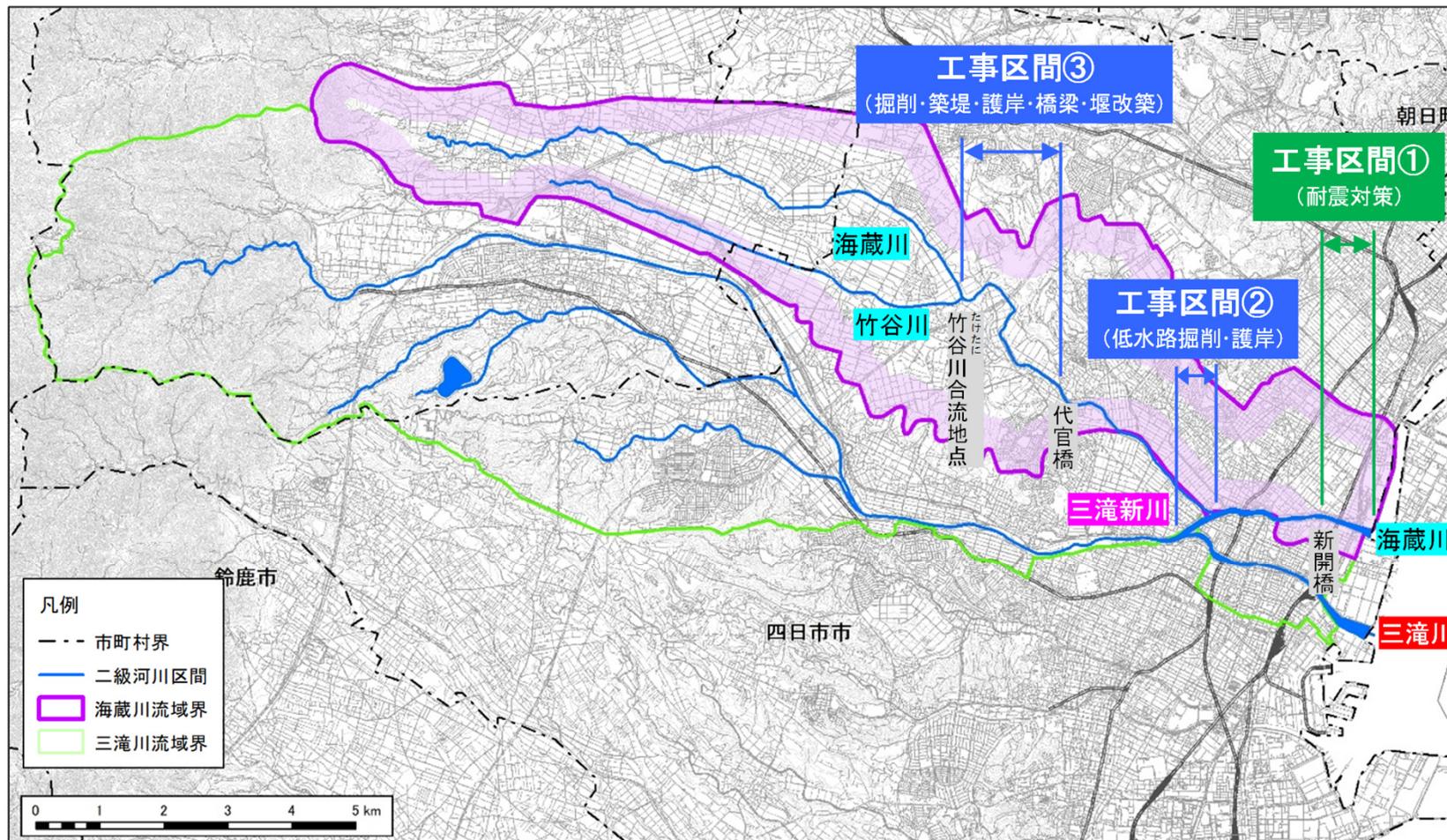
### 河川改修の施行場所と主な整備内容

河川名	区間	主な整備内容
海蔵川	①河口～新開橋付近 (0.0km付近～0.8km付近)	耐震対策
	②三滝新川 (0.0km付近～0.5km付近)	低水路掘削・護岸
	③代官橋付近～竹谷川合流点 (5.7km付近～8.5km付近)	掘削・築堤・護岸 橋梁・堰改築

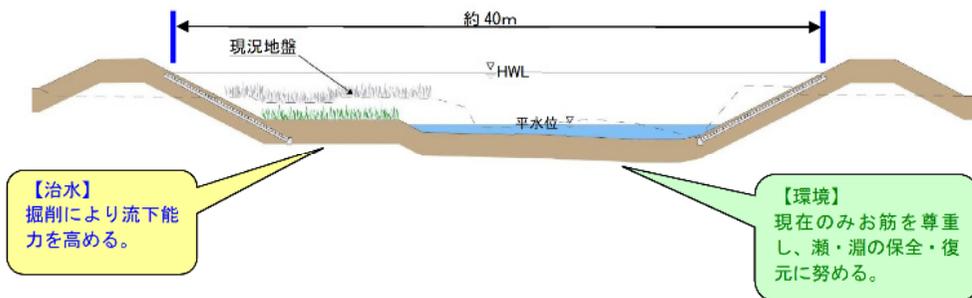
# 河川整備の実施に関する事項（計画平面図・横断図）



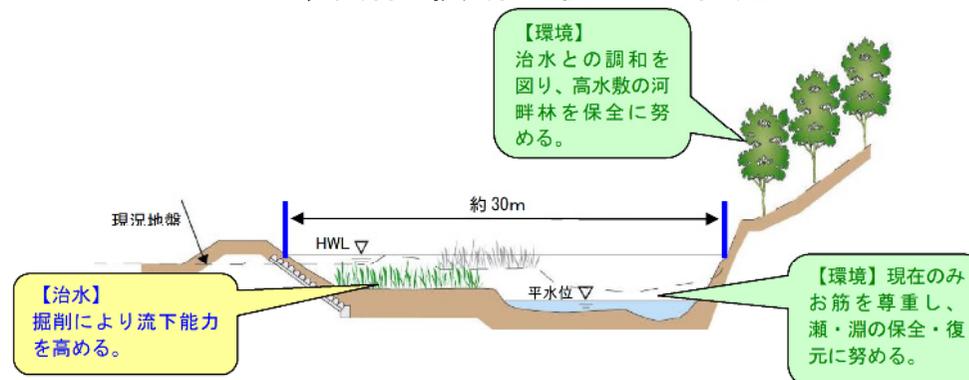
## （海蔵川）



代表断面横断形状 6km付近



代表断面横断形状 8km付近





## 河川の維持の目的、種類及び施行場所（三滝川・海蔵川）

### ①河道の維持

- 土砂などにより河積が阻害され、出水時に危険が予想される場合には体積土砂の撤去を検討する。特に出水後は河川巡視を実施し、主として目視により土砂の堆積状況等を確認する。
- 土砂の撤去の際には、平坦な河床としないなど極力現況の自然環境への配慮を行う。
- 河道内の樹木については環境面を配慮し極力保全していく方針とするが、流水の阻害や河川構造物に影響を与える樹木等については、必要に応じて適宜その伐採を実施する。
- 河川内ゴミ等については、関係機関等との連携を図りながら河川美化に努める。

### ②河川管理施設の維持

- 堤防及び護岸の維持については、定期点検により法崩れ、ひび割れ、漏水、沈下等の異常がないかを確認する。異常が確認された場合には、必要な対策を実施し堤体の機能維持に努める。
- 堤防の法面については、雑草等の繁茂が法崩れ、亀裂、陥没等の以上を発見する支障とならないようにする為、地域住民と連携を図り除草等の日常管理に努める。

## 河川の維持の目的、種類および施工の場所（**三滝川**・**海蔵川**）

### ③水量の監視等

- 動植物の生息・生育環境の保全および利水の安定的な取水に必要な流量の確保を旨とし、水量の監視を行う。
- 関係機関との連携・協力のもと、適正な水利用の促進を図るとともに渇水時の情報伝達体制の整備、綿密な情報提供等水利用の効率化に努める。

### ④水質の保全

- 関係機関との連携・調整を図りながら、現在の良好な水質の保全に努める。

### ⑤河川環境の適正な利用と管理

- 魚類の移動が困難な堰等の横断工作物については、関係機関との連携のもと、河川の連続性の確保に努める。

## その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項（三滝川・海蔵川）

### ①整備途上段階および超過洪水への対策

- 計画規模を上回る洪水などによる被害の軽減を図るため、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策（流域治水）について、関係機関と連携し推進する。
- ソフト対策としては、「川の防災情報」、「防災みえ.jp」等による水位・雨量情報や、簡易型河川監視カメラの画像等の情報提供、市町が取り組む洪水ハザードマップ作成の支援など、総合的な被害軽減対策を流域の市町等関係機関や地域住民と連携して推進する。
- 情報伝達及び警戒避難体制の整備を行うとともに、地域住民の防災訓練の参加等により、災害時のみならず平常時から防災意識向上や水防活動の充実に努める。

### ②河川情報の提供、流域における取組への支援等に関する事項

- 地域に対して河川に関する各種情報の提供を実施する。
- 地域住民との情報交換は一方通行とならぬよう常に意思疎通を図り、住民の意向を反映した住民との「協働」による河川整備を目指す。
- 河川整備にあたっては、流域住民との情報の共有化等により、住民の積極的な参加を促進し協働による川づくりに努める。



# 目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
3. 第2回住民アンケート調査結果 [新規]
4. 河川整備計画（原案）の概要 [新規]
  - 4.1 流域及び河川の概要 [変更なし]
  - 4.2 現状と課題（治水・利水・環境） [変更なし]
  - 4.3 河川整備計画の目標に関する事項 [新規]
  - 4.4 河川整備計画の実施に関する事項 [新規]



5. 今後の進め方 [一部更新]



## 第1回 流域委員会（令和6年8月23日）

- ✓流域の概要、現地視察
- ✓治水、利水、環境の現状と課題

## 第1回アンケート （令和6年12月～令和7年1月）

- ✓関係住民の意見聴取  
（流域の概要、治水、利水、環境の  
現状と課題）

## 第2回 流域委員会（令和7年5月13日）

- ✓気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
- ✓治水計画における見直しの方向性

## 第3回 流域委員会（令和7年9月25日）

- ✓河川整備計画(原案)(案)

## 第2回アンケート （令和7年10月）

- ✓関係住民の意見聴取  
（河川整備計画(原案)(案)）

## 第4回 流域委員会（令和7年12月25日）

- ✓河川整備計画(原案)

今回



関係機関協議・パブコメ・関係市町長意見聴取

河川整備計画策定(令和7年度中)